

地域生活移行・生活支援における相談支援機能強化方策検討事業

「地域生活移行支援におけるピアカウンセリング活用試行実施

及び 普及・啓発ツールの作成」

報 告 書

平成 2 1 年 3 月

大阪府





## 第 章 活動の経過・参考資料

- 1．モデル施設へのピアサポーター派遣試行
  - (1)ピアサポーターの活動・施設別報告書 p25
  - (2)入所施設利用者に対するアンケート結果 p39
  - (3)ピアサポーターからの報告 p51
  - (4)派遣調整事業所からの報告 p53
  - (5)受け入れ施設からの報告 p59
  - (6)知的障がい者入所施設A ピアサポーターと支援者との打ち合わせ資料 p61
  - (7)知的障がい者入所施設A 参加者への配布資料 p63
  - (8)知的障がい者入所施設B 1回目配布資料 p65
  - (9)身体障がい者施設E 5回目配布資料 p69
  - (10)入所施設利用者へのアンケート用紙 p73
  
- 2．地域生活移行啓発ビデオの制作
  - (1)成果品 p80
  - (2)「はじめてみませんか 地域の暮らし～ひとりじゃないよ～」シナリオ p81

## はじめに

### 1. 事業の目的

地域生活移行とは、障がい者自らが選択した地域で、必要なサービスや資源を利用し、安心して地域生活を送ることを確保するものであり、障がい者の自立にあたっては、一人ひとりの自己選択・自己決定を基本とすべきであることから、地域生活移行を支援する際にも、本人の意向を尊重することが最も重要となる。

大阪府が平成 19 年度に実施した「地域移行に向けた意向調査」により、地域生活移行支援を進めていくうえでの地域生活移行の意思形成、意向確認の重要性が明らかになり、同じ障がいの立場で、当事者自らが地域での暮らしぶりを入所施設利用者に伝えるなどのピアカウンセリング手法の検討、わかりやすい情報提供ツールの作成が必要であることが示された。

現在、ピアカウンセリングは市町村における相談支援事業に位置づけられているが、地域生活移行の意思形成においても、実際に地域生活移行体験を持つ人の体験談による地域生活のイメージづくりが有効であることがわかっており、

「大阪府地域移行推進指針」（平成 20 年 3 月）において、

- (1) 入所施設から地域移行して暮らしている人の話を聞いたり、生活の様子を見たりするなど、本人が実感しやすい情報提供が重要であるとし、ピアカウンセリングを活用した入所施設利用者に対する地域生活移行への働きかけの方策を今後の検討課題とした。

また、

- (2) 地域生活移行の意思形成、意向確認を進めていくうえで、視覚的にわかりやすい資料による情報提供が効果的であり、本人にあった内容やメディアの選択が大切であるとした。

そこで、

ピアカウンセリングを導入した地域移行支援の現状分析、課題検討を行い、実践に裏付けられた、より有効な支援方法を検討するために、

- (1) については、

「地域生活移行支援ピアカウンセリング活用方策検討委員会」を設置し、地域生活移行支援におけるピアカウンセリング活用方策の検討を行うとともに、府がこれまでに実施した養成研修を修了した「ピアカウンセラー」、地域生活移行の経験者等の地域で生活する当事者の交流研修を通じ、入所施設利用者にとどのように地域生活を伝えるかの方法を検討し、

「ピアサポーター」としてモデル施設へ派遣し、効果の検証を行うことにより地域生活移行、とりわけ意思形成支援の取り組みを進めていくこと

(2) については、

実際に地域生活移行体験を持つ人や入所施設、地域移行支援センタースタッフなど地域生活移行支援経験者の参加により、地域生活移行や地域生活をイメージしやすくするためのツールを作成すること

を、本事業の目的とした。

## 2. 実施事業及び実施方法

### (1) 地域生活移行支援におけるピアカウンセリング活用試行実施

地域生活移行支援ピアカウンセリング活用方策検討委員会

～平成20年11月～平成21年3月に計3回開催

地域生活移行支援のためのピアサポーター研修会

～身体障がい分野、知的障がい分野各1回ずつ開催

モデル施設へのピアサポーター派遣試行と検証

～ワーキング会議にて日程等の検討

- ・身体障がい入所施設3ヶ所、知的障がい入所施設2ヶ所への派遣を事業所に委託

### (2) 普及・啓発ツールの作成

ビデオ作成のためのワーキング検討会 ～ビデオ内容及びシナリオ作成等の検討

ビデオ制作

～制作会社に委託

平成20年度障害者保健福祉推進事業(地域移行・生活支援における相談支援の機能強化方策検討事業)事業実施表

		11月	12月	1月	2月	3月					
ピアカウンセリング検討委員会											
ピアサポーター研修											
ピアサポーター派遣	ワーキング会議										
	モデル施設との調整										
	派遣調整事業機関					検証結果まとめ					
	ピアサポーター					ピアサポーター派遣(各施設4～5回)					
地域生活移行啓発DVD制作				ワーキング会議	打ち合わせ	撮影	編集	試写版完成	検討	ワーキング会議	完成

## 第 章

「地域生活移行支援におけるピアカウンセリング活用試行実施  
及び普及・啓発ツールの作成」





## 1. 「地域生活移行支援ピアカウンセリング活用方策検討委員会」

### (1) 目的

平成 19 年度に大阪府が入所施設利用者を対象に実施した「地域移行に向けた意向調査」において、地域生活移行支援においては、地域生活移行のための意思形成、意向確認が重要であることが明らかになり、とりわけ入所施設利用者と同じ障がいの立場で地域での暮らしぶりを伝えるなどピアカウンセリングの重要性が明らかになった。

また、「大阪府地域移行推進指針」（平成 20 年 3 月）においては、ピアカウンセリングを活用した入所施設利用者に対する地域生活移行への働きかけの方策を今後の検討課題とした。

このため、地域生活移行支援におけるピアカウンセリング活用方策の検討を行う。

### (2) 組織

検討委員会は、地域生活移行支援に精通したピアカウンセラー（ピアサポーター）、福祉サービス実務担当者（入所施設、相談支援及び地域移行支援センター）、福祉行政実務職員等をもって構成。

#### (検討委員会構成員)

ピアサポーター（地域生活移行経験者）

#### ②「ピアカウンセラー派遣事業」受託事業所

入所施設支援者

地域移行支援センター実務者

相談支援事業実務者

福祉行政実務担当者

### (3) 検討事項

地域生活移行支援におけるピアカウンセリング活用方策の検討

地域生活移行支援のためのピアサポーター研修

モデル施設でのピアカウンセリング活用試行と検証

広報、啓発のためのツール作成

### (4) 開催経過と検討内容

第 1 回「地域生活移行支援ピアカウンセリング活用方策検討委員会」

平成 20 年 1 月 26 日（水曜日）午後 2 時から 4 時

議 題

1. 大阪府における地域生活移行支援の現状について
2. 当検討委員会設置の主旨について
3. 地域生活移行支援のためのピアサポーター研修(案)提案、検討
4. ピアカウンセリング活用試行のためのモデル施設提案、検討
5. 広報、啓発のためのツール作成について提案、検討
6. ワーキンググループの設置について
7. 今後の進め方について

## 第2回「地域生活移行支援ピアカウンセリング活用方策検討委員会」

平成21年2月16日（月曜日）午後2時から4時

### 議 題

1. 各事業の進捗状況について
  - (1) 地域生活移行支援のためのピアサポーター研修
  - (2) ピアカウンセリング活用試行のためのモデル施設へのピアサポーター派遣について
  - (3) DVD制作について
2. 各事業のまとめ、報告について

## 第3回「地域生活移行支援ピアカウンセリング活用方策検討委員会」

平成21年3月23日（月曜日）午後2時から4時

### 議 題

1. 各事業のまとめについて
  - (1) ピアカウンセリング活用試行のためのモデル施設へのピアサポーター派遣について
  - (2) DVD制作について
2. 事業報告書作成について
3. 地域生活移行市民フォーラム開催について
4. その他

## (5) 検討委員から寄せられた意見（まとめ）

ピアサポーターの派遣にあたり、今回派遣を行った施設には積極的な協力が得られたところであるが、今後、同様の取組みを進めていくには、施設の理解と協力を得られるような体制づくりが必要である。

今回の派遣に際しては「地域生活移行支援のためのピアサポーター研修」を実施し、研修や交流を通じて、ピアサポーターと支援者が地域生活移行支援に関する共通のイメージを持ち、必要な情報を提供できる体制で臨んだ。このことが、施設の協力体制を確保し、入所施設利用者への働きかけの効果を高めることにつながったと思われる。ピアサポーターは、入所施設利用者のライフスタイルの変革に関わる大きな役割を担っていることから、こうした研修を開催することも重要と思われる。

地域の情報の提供や地域生活移行への意思の醸成については、継続的な働きかけが必要であり、その後の地域生活への移行支援を考慮すると、ピアサポーター派遣は市町村をはじめとした地域の支援機関と連携しながら進める必要がある。

### <検討委員の意見>

- ・ 今回の事業に関わった全ての人（ピアサポーター・入所施設利用者及び関係者）が、このような形式での取組みを、モデルのままで終わらせたくないという思いを強く持っている。
- ・ 今回、限られた時間であっても入所施設利用者には何かの変化「やる気になればできる！」という気持ちを起こせたことは、事実である。「施設から出たい！」という思いも、「出るのが怖い！」という相反する思いも、ピアサポーターなら受け止めていける。
- ・ 今後3ヶ月間、何も働きかけが無い状態が続くとまた元に戻ってしまうと思う。それが怖い。せっかく実施できた今回のモデル事業を、細々とでも事業として続けていく

必要がある。これまで実施してきたのは掘り起こしの事業。

- 地域に出たい人を見つけにピアサポーターが行くというだけではなく、施設側がピアサポーターの関わりを求めてくれるかどうかも大切。意思形成が出来ていないところにピアサポーターが起こしに行く。そして、起きてきた人をどうするか。起こす段階をもっと増やしていく。この両者の交通整理が必要だろう。地域へ出た後の継続した支援も必要。どこに焦点を置いての事業か、ということが大切。
- 今までも「意思形成」支援は行ってきたが、メッセージは送り続けていけないといけない。また、希望としては「出たくない。」という人も多い。しかし、「それでいいのか?」「さまざまな要因で阻まれているだけではないか?」と思う。本人が本当に出たくないと思っているのかはわからない。地域に出るには、地域で何がしたいかが大切。三食の食事と介護がついていけばよいというのではなく、外で何がしたいかが地域生活移行へのエネルギーになる。
- 単発で取り組みをするだけでは地域生活移行は実現しないので、今後もこのような取り組みを継続的に実施していく必要がある。
- 今後は、今回実施できなかった施設にも声をかけ続けて、施設職員の意識をどのように変えていくかが重要になってくる。「ピアカウンセラー派遣事業」依頼の連絡先等を入所施設利用者本人に伝えても、自分で電話をかけて外出したら施設にいれなくなるのではという思いから、本人が連絡することができないこともある。入所施設は生活している場なので、施設の協力体制がないとできない。そういうことから、施設職員がこのような事業をどう受け止めるかが大切。単に外出しているという意識では、なかなか地域生活移行の個別支援にはつながりにくい。
- 今までは施設の中の風通しをよくするための「ピアカウンセラー派遣事業」であったが、今回の事業はもう一歩推し進めた事業と考えている。そのあたりの施設との関係作りを府に期待したい。
- 地域生活への移行に気持ちが向いてきた人を、どのように地域生活につなげていくか、地域生活移行支援の経過の中にピアサポーターとつないでいくモデルとして、今回の試行事業が活きるようにしていく必要がある。
- 今回モデル事業で取り組んだように、説明会だけではなく見学会や個別相談などさまざまな取り組みのノウハウを今後広く活用できるようにしていく必要がある。各市町村でもやる気になれるようなモデルを示してもらいたい。
- 今回の取り組みで、こうしたらニーズを引き出せるという大きな枠組みを作った。ビデオも作ったので、市町村や事業所などにぜひアピールをしてほしい。本人がどれだけ頑張ろうと思っても、市町村、事業所、施設、地域など全ての意識が変わっていかないといけない。

「地域生活移行支援ピアカウンセリング活用方策検討委員会」委員

検討委員	身体		知的	
	所属	氏名	所属	氏名
ピアカウンセラー (地域移行支援経験者)	障害者相談支援センター「かたの」	金澤 季代子	パンジー	野村 信久 山田 浩
ピアカウンセラー 派遣事業受託事業所	大阪障害者自立生活協会	西尾 元秀	大阪手をつなぐ育成会	笹川 えり子
入所施設 支援者	堺福泉療護園 相談支援専門員	奥田 清三	大阪府障害者福祉事業団 企画調整課	柳屋 美香
地域移行支援センター 実務者	所属	所属	氏名	
相談支援事業 実務者	障害者地域移行支援センターすてっぷ		宮崎 充弘	
福祉行政実務担当者 (市町村)	障害者相談支援センターわらしべ 吹田市（障がい者くらし支援室）		横松 美佳	

## 2. 地域生活移行支援のためのピアサポーター研修

### (1) 目的

平成 19 年度に大阪府が入所施設利用者を対象に実施した「地域移行に向けた意向調査」において、地域生活移行支援において入所施設利用者にピアの立場で地域での暮らしぶりを伝えるなど、地域生活移行の意思形成、意向確認を進めていくうえでのピアカウンセリングの重要性が明らかになった。そこで、地域生活移行支援におけるピアサポーターへの基礎的研修会を開催した。

なお、今回の研修の名称については、「ピアカウンセラー研修」との名称で開催した場合、従来から府が開催してきた研修との混同が生じる恐れがあり、今回は、あくまでも地域移行のための研修として開催するので、「ピアカウンセラー」という名称を避け、「ピアサポーター」という名称で開催した。

### (2) 受講対象者

地域で生活している障がい当事者で、「地域生活移行支援ピアカウンセリング活用方策検討委員会」委員の推薦による。

### (3) 研修会場

大阪府障がい者自立相談支援センター（大会議室）

### (4) 研修日程と内容

身体障がい分野 平成 20 年 12 月 15 日（月）午前 10 時～午後 4 時

内 容 ・「大阪府地域移行推進指針」 について（説明）

- ・ 地域生活移行の 取り組みについて（発表）

NPO 法人自立生活センター Flat きた	大代 裕之さん
NPO 法人自立生活センター ほくせつ二十四	山田 千恵子さん
NPO 法人自立生活センター マイロード	水谷 信一さん
社会福祉法人 あいえる協会	下村 雅哉さん

- ・ DVD「わたしの生活みい～つけた」 上映
- ・ 参加者の 交流

知的障がい分野 平成 20 年 12 月 22 日（月）午後 1 時 30 分～午後 3 時 45 分

内 容 ・「大阪府地域移行推進指針」 について（説明）

- ・ 地域生活移行の 取り組みについて（発表）

\* プロジェクターを使用してパワーポイント資料で画像示しながら発表。

パンジー	野村 信久さん	山田 浩さん
	中山 千秋さん	西野 貴善さん

自立生活センター・どんどん	金 光雄さん	北山 姫和さん
	菅田 裕加さん	藁谷 正美さん

- ・ 参加者の交流

## (5) 参加者

身体障がい分野	当事者	23名	支援者	15名	事務局	4名
知的障がい分野	当事者	14名	支援者	9名	事務局	4名

## (6) 参加者の感想

身体障がい分野

- ・ これまで地域移行の取り組みについてまとまった形で聴いたことがなかったのでとても刺激を受けた
- ・ 今後もこのような集まりを継続的に行ってほしい
- ・ まず、行政がこのような研修会を企画していることが素晴らしいと思いました。障がい者が地域で暮らす権利を認め、その役割の中にピアカンを位置づけていることがわかりうれしかった。
- ・ 他のセンターの実践例などを聞いて、学ぶところもあり、また明日からがんばる力になりました。
- ・ 原点に戻ってよかった。
- ・ 施設中での地域移行の全体化と、共同支援の取り組みがもっと進めばと思う。
- ・ 久しぶりに多くの当事者が集まり、発表が聞けた。事業化していく中での当事者の取り組みがいかにか大切かと言うのがわかりました。(スピーディーに効率的になっている)
- ・ 施設での生活が長期(長年)にわたる方にとって、未来(明日)に夢や理想と現実社会を結び付けていくことの大切さ、その一部分を同じ境遇の人が関わることが出来るのは、ステキなことやと思います。
- ・ 他団体の取り組みを聞くことで、非常に勉強になりました。実際の取り組みでも連携を深めていければと思います。
- ・ 個別支援でのネットワークから、地域移行につなげていくセンターの役割の大切さがわかりました。ひとりでも多くの支援を必要とされる方とつながっていければいいなと思いました。
- ・ 地域で自立して生活している障がい者であるからこそ、現実の生活を伝え、教えることができる。ピアサポーターとして、どんどん地域に生活するよう支援する必要性を尚一層考えさせられた。
- ・ 自由な生活、自立するのは当然の権利であり、守られていかなければならないが、地域移行の制度が進んではいるが、実際にはサービス面、金銭面、地域社会の意識であったり、まだまだ困難な面があるのは事実であり、地域移行の難しさはいなめない。
- ・ 地域移行はこれからが本番。ピアサポーターとしてさらにスキルアップを積み重ねていく必要性を感じた。地域移行の重要性をあらためて感じさせられました。
- ・ 施設職員の意識改変が必要だと感じた。
- ・ 入所者が“自分と同じ”と、まず親近感から入っていくことは大切だと思う。ピアサポーター自身が地域生活をエンジョイしていることが、入所者にも伝わってほしいなと思う。
- ・ 具体的な施設への働きかけ等について、もう少し詳細を話して頂けたら良かったと思います。特にピアサポーターの(入所者施設利用者への)関わり方について、その詳細を

お聞きしたかったと思います。

- ・ 施設への働きかけについては「やりたい！」という思いをずっと抱いてきましたが、いざ地域へとなった際、支給決定時間数が足りない…、重度訪問派遣を担ってくれる事業所がない…、などの難問が待っています。これをどうクリアしていくのか、頭が痛い状況です。
- ・ 地域移行の制度が不十分で、そこをどうしたらいいかが、もう少し聞けたら良かった。住宅や介護の問題を考えるとなかなかハードルが高い。

#### 知的障がい分野

- ・ たのしかったです。
- ・ よくいえました。
- ・ 今は、どんどんさんの所と、クリエイティブハウスパンジーさんの所の話を聞いてよかったです。また、いろんな人の話を聞きたいと思いました。
- ・ 少し眠たかったところもありました（部分的に）。サポーターとしてやっていけるかもしれないと、これも思いました。
- ・ 施設の方の参加などもあれば良かったと思います。地域移行、当事者が応援できるような制度を是非！！
- ・ もう少し、地域移行についてやそれぞれの生活について話し合えればよかった。
- ・ 以前、入所施設で働いていたときに、利用者はどう考えているのかと思いながら聞いた事もしていましたが、今回の話を聞いて、やっぱり地域で生活したいけど言えないということが感じられました。
- ・ 施設へのアプローチや機関など、もう少し具体的な方法も参考までに教えてもらえたらよかったのに…とは、思います。
- ・ これから多くの方が地域生活ができるようになっていけたらと思います。友だちやまわりに助けてくれる支援者がたくさんいるから、自信をもって地域にきて大丈夫です。

### 3. モデル施設へのピアサポーター派遣の試行と検証

#### (1) 目的

相談支援機能強化方策検討事業により、大阪府内の知的障がい及び身体障がいの入所施設利用者に、ピアサポーターが同じ障がいの立場で地域の暮らしぶりを伝えることで、地域生活移行への意思形成を働きかける。

#### (2) 内容

地域生活移行の経験者が中心となった当事者活動を行っている事業所（2箇所）に以下の取組みを委託し実施した。

- ・ピアサポーターによる体験紹介、学習会の実施
- ・施設利用者に対する相談・支援
- ・グループホーム、ケアホーム、日中活動事業所等の見学

#### (3) 実施期間

平成21年1月5日より平成21年3月31日までの間で調整とする。

#### (4) 対象モデル施設

- ・知的障がい者入所施設 2施設
- ・身体障がい者入所施設 3施設

#### (5) 効果検証

ピアサポーター派遣について、その結果の検証として、モデル施設の利用者を対象にアンケートを実施した。

(アンケート実施時期)

- ・初回のピアサポーター派遣時（主に体験紹介）に実施
- ・グループホーム、ケアホーム、日中活動事業所等見学時に実施
- ・最終回のピアサポーター派遣時（主に感想及びまとめ）に実施

(アンケート回答について)

各回プログラム終了後、入所施設利用者により記入または支援者や施設職員の聞き取りにより記入。

「初回」「見学時」「最終回」ごとに、集計を実施した。

(アンケート回答者数)

	初 回	見学時	最終回	合 計
知的障がい者入所施設	31	37	30	98
身体障がい者入所施設	33	27	26	86
合 計	64	64	56	184



(6) ピアサポーター派遣日程

	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回
知的障がい者入所施設 A	月 日	2月12日(木)	2月26日(木)	3月 2日(月)	月 日( )
	時 間	1時～2時45分	1時～2時45分	1時～3時	
	参加利用者数	15名	11名	15名	14名
知的障がい者入所施設 B	内 容	ピアサポーター 体験紹介	グループホーム 見学	生活介護事業所 見学	参加者の感想、意見交換 及びまとめ
	月 日	1月23日(金)	2月23日(月)	3月11日(水)	3月19日(木)
	時 間	9時30分～12時	1時～4時	10時～12時	10時～12時
知的障がい者入所施設 C	参加利用者数	20名	11名	6名	20名
	内 容	ピアサポーター 体験紹介	グループホーム 生活介護事業所見学	参加者との個別相談会	参加者の感想、意見交換 及びまとめ
	月 日	1月20日(火)	2月19日(木)	3月12日(木)	月 日( )
身体障がい者入所施設 D	時 間	2時～4時	2時～4時	2時～4時	
	参加利用者数	8名	6名	5名	
	内 容	ピアサポーター 体験紹介	参加者との交流会	グループホーム 見学	
身体障がい者入所施設 E	月 日	1月28日(水)	2月 9日(月)	2月26日(木)	3月12日(木)
	時 間	2時30分～4時30分	2時30分～4時30分	2時～4時	2時30分～4時30分
	参加利用者数	15名	16名	8名	7名
身体障がい者入所施設 E	内 容	ピアサポーター 体験紹介	参加者との交流会	福祉ホーム 見学	生活介護事業所 見学
	月 日	1月21日(水)	2月 6日(金)	2月24日(火)	3月 3日(火)
	時 間	3時～5時	2時～4時	2時～4時	2時～4時
身体障がい者入所施設 E	参加利用者数	13名	16名	5名	5名
	内 容	ピアサポーター 体験紹介	参加者との交流会	生活介護事業所 見学	一人暮らしのピアサポーター 自宅見学
	月 日	3月13日(金)	2時～4時	2時～4時	2時～4時
					参加者の感想、意見交換 及びまとめ
					参加者の感想、意見交換 及びまとめ

## 4．地域生活移行ビデオ制作

### (1) 制作目的

地域生活移行の支援は、本人の意向を尊重してすすめられる。しかし、入所施設において実施した平成19年度「地域移行意向調査」では、「地域では暮らせない」と思い込んでいたり、地域生活をはじめからあきらめていたり、地域生活に対する漠然とした不安を抱く人たちが相当数いることが明らかになった。

それは、さまざまな必要な情報が本人に届いていないことが、要因の一つではないかと考えられる。長い施設での生活で、地域生活をイメージできない場合、希望があるかと聞かれても答えられないことが想像できる。

本人が、地域生活移行への希望を抱いたり、意思を固めることができるためには、本人に直接届く働きかけが必要である。

また、家族も必要な情報が届いていないことで、本人の地域生活への不安が大きく、そのことが、本人の地域生活移行の意思形成において壁となっている。

これら、調査から明らかになった結果により、今回のビデオ作成では、本人や家族に、できるだけ具体的に、そしていきいきした地域生活の情報を提供することを中心に、さらに、施設関係者や一般府民の理解を深めるために、当事者からの声を中心にしたビデオ「はじめてみませんか 地域のくらし～ひとりじゃないよ～」を作成した。

### (2) 制作の経過

#### ○12月8日 ワーキング検討会

- ・ ビデオによる啓発の対象は知的障がいを中心とする。
- ・ 施設から地域生活に移行していくプロセスを、障がい者が見たときに、わかりやすいものにする。このビデオを最後まで見ようという気持ちが続く内容にする。
- ・ プロセスでは、本人の逡巡する気持ちや、それを支える支援者との関係性を表現する。等を中心に検討。

#### ○12月17日 撮影機関の事前調査および当事者との顔あわせ

- ・ 制作会社と撮影機関の入所施設、共同作業所、地域移行支援センター、就労移行・継続支援事業所関係者の顔あわせ。撮影場所の確認。
- ・ 出演者との顔あわせ

#### ○1月15日・21日・25日 撮影

- ・ 地域移行支援センター、就労移行・継続支援事業所、共同作業所、入所施設等での撮

#### ○2月13日 試写版完成

- ・ ワーキングにて試写し、編集内容の検討
- ・ 編集を単純にして、プロセスをわかりやすくする。理解のためにテロップを有効につかう。等を検討

#### ○3月9日 ワーキング検討会

- ・ ビデオ編集内容最終確認

#### ○3月13日 ビデオ完成

### (3) ビデオに登場した当事者の感想

- 「撮影のとき、いっぱいインタビューされたこと、けっこう大変だった。でもいっぱい削られてるけど…。」  
「(今回) 出演して、これまでの自分のこと振りかえった。良かった。」  
「(このビデオを見てくれる人に)  
障がいも重くても、グループホームとか、地域で生活できると思うから、自分がやりたいこと選んで、決めてほしい。チャレンジしてほしい。」
- 「このビデオを、施設を出たいと思っていても、どうすればいいのか分からない人に、見てもらうことができたなら、良いです。」

### (4) ビデオ制作のまとめ

ビデオには、たくさんの当事者の方に登場してもらった。現在、入所施設で地域生活への移行のために体験をしている方や、説明会に参加した方々は、これからの希望を話してくれた。

入所施設を退所して、地域で継続して暮らしている方々は、たくさんの笑顔と言葉を表現してくれた。

事前準備に十分な時間もとれずに実施した3日間だけの撮影にもかかわらず、当事者と支援者の方々の大きな協力があり、このようなビデオを作成することができたことに感謝したい。

完成したビデオは、今後、福祉関係者等に幅広く配布するとともに、さまざまな機会を捉えて上映するなど、地域生活移行についての理解、啓発に活用していきたい。

## まとめ（今後の課題として）

大阪府においては、『人が人間（ひと）として普通に暮らせる自立支援社会づくり』を基本理念に、第3次大阪府障がい者計画を策定し、

- 1 ともに支え、支えられる地域社会
- 2 権利としての平等な障がい福祉サービスが保障された社会
- 3 リハビリテーションが浸透した社会
- 4 障がい者が働き方や生きがい活動を選べる社会
- 5 バリアフリー社会

をめざすべき5つの社会として、その実現に向けて、様々な施策目標を掲げている。

なかでも、地域生活移行の推進は、最重点施策の一つであり、

- (1) 地域生活への移行に向けた取組み
- (2) 居住の場や日中活動の場の確保
- (3) 地域生活移行後の支援体制の整備

に関して、市町村、施設・病院、事業者等が緊密に連携し適切な役割分担のもと、総合的な取組みを展開することを目標としているところである。

### 地域生活移行の推進

大阪府障がい者自立相談支援センターにおいて、市町村、施設・病院、障がい福祉サービス事業者等に対し、地域移行に向けた機運の醸成を図り、市町村において対応が困難なケースについては、専門的・技術的な支援等を行います。また、地域でのグループホームなどの基盤整備を支援します。

#### < 実行目標 >

目標値（平成23年度末）

入所施設利用者の地域移行目標 25%

入所施設利用者の削減目標 ▲12%

平成19年度に策定した地域移行推進指針を活用し、市町村及び入所施設等に対し、その普及を図るとともに、地域移行に向けた個別支援計画の作成等の支援を行います。

入所施設利用者へのエンパワーメントや地域生活における具体的情報提供を行うためのピアカウンセリングの普及を図ります。

府域に設置する地域移行支援センターにおいて、本事業で整備するグループホーム等の定員の1/3以上は、入所施設からの地域移行者とします。

今年度の事業では、平成19年度に実施した「地域移行に向けた意向調査」により得られた課題のうち、地域生活移行のための意思形成に関わる支援策として掲げた以下の2つの事業に取り組んだ。

1. ピアカウンセリング活用の試行と検証
2. わかりやすい情報提供のためのツール作成

各事業から得られた検証結果を整理し、総括したい。

## 1. ピアカウンセリング活用の試行と検証

### (1) 人材確保（研修）

今回の事業では、地域生活移行支援に関わる当事者を、「ピアカウンセラー」に限定せず、地域生活移行の体験者も含み「ピアサポーター」として入所施設に赴くこととして取り組んだ。今回実施したモデル施設の参加者からは、同じように入所施設で生活していた人が地域生活移行を実現した経緯を伝えることで、具体的なイメージを持ちやすい存在となったとの感想があった。

検証結果から、地域生活移行支援のためのピアカウンセリングの活用については、今回の事業で活躍したピアサポーターのように、いわゆるピアカウンセラーだけではなく幅広く地域生活移行体験者も含んでいくことが妥当と考えられ、すでにその施設から地域生活移行した人がいる施設では、身近なところにピアサポーターとして活用できる人材がいることになる。

今後、地域生活移行体験者がピアサポーターとして働きかけていくためには、情報の効果的な提供のために、体験談の伝え方や映像、画像の使い方などをお互いに交流し、研修する場を設定していくことが必要である。

社会資源としてのピアサポーターを確保するためには、このような研修の場を設定したり、プログラムを検討したりするなどの取り組みが必要であるが、人材育成については、広域的な観点から都道府県が担っていくことが考えられる。

### (2) プログラム

今回の事業における標準的プログラムは、各施設により違いはあるが、以下のとおりであった。

第1回	ピアサポーターが施設に訪問して、地域生活の様子を伝える
第2回	
第3回	ピアサポーターの案内で、実際に地域で生活している様子を見学する
第4回	
第5回	ピアサポーターが施設に訪問して、感想などを話し合う

これらのプログラムで、入所施設利用者からとりわけ好評であったのは、第3回、第4回の見学会であった。

実際に日中活動の場や生活の場を見ることで、施設の中で話を聞くだけでは得られない具体的なイメージを持つことができ、参加者自身の具体的な課題を見出すことができたとの感想が多くあった。

「大阪府地域移行推進指針」において、“地域移行体験を持つピアカウンセラーが、自らの体

験をもとに相談を行うことは大変有効であり、ピアカウンセラーを活用した入所施設利用者への働きかけと派遣の仕組みづくりが今後の課題です。”と示したが、今回の試行事業により今後の働きかけの具体的な方向性を見出せたと思われる。

今回の検証結果から得られた結果に基づき、今後、地域生活移行支援のためのピアカウンセラーやピアサポーターの活用について、訪問だけではなく、モデル事業のように見学などの取り組みも含んだ多面的な情報提供を行えるプログラムが有効であると思われる。

実施に際しては、施設外での事故や費用面など検討すべき課題もあるが、今後プログラムの中に積極的に取り入れていきたいものである。

### (3) 市町村障がい者相談支援事業におけるピアカウンセリング活用と派遣調整

第3次大阪府障がい者計画（後期計画）において、市町村におけるピアカウンセリングについて次のような実行目標を掲げている。

#### 相談支援体制の充実、市町村を基盤とした相談支援体制の確立

障がい者の個々の障がいの特性やニーズに応じた支援、障がい者同士や家族の交流の場づくり、障がい者の相互の支援活動（ピアサポート）の導入が進むよう、相談支援体制の充実に向け支援・働きかけを行います。

#### < 実行目標 >

市町村障がい者相談支援事業に位置づけられたピアカウンセリングの普及を図るため、市町村における事業実施を促進するとともに、単独では実施困難な市町村に対する派遣調整を行う等、全ての市町村におけるピアカウンセリングの提供を図ります。

また、入所施設利用者へのエンパワメントや地域生活における具体的情報提供を行うため、ピアカウンセリングの普及に努めます。

入所施設利用者が地域生活をはじめた後にも、入所中に働きかけを行ったピアカウンセラーやピアサポーターは、引き続き身近な相談相手として、関わっていく役割が期待できる。

市町村においては、たとえば、障がい程度区分の認定調査や障がい者手帳の更新の時期を捉え、入所施設利用者へピアカウンセラーやピアサポーターについての情報を提供する等の働きかけが望まれる。

しかし、現状では、大阪府においては全ての市町村にピアカウンセラーが配置されているわけではなく、市町村として今後どのようにしてこうした人材を確保し、派遣していけば良いのかという課題が残る。

また、地域生活移行支援におけるピアカウンセリングについて、市町村のピアカウンセラーがそれぞれに入所施設に赴き、継続的に入所施設利用者へのエンパワメントへの働きかけや地域生活の具体的な情報提供などの地域生活移行の意思形成の支援を行うには、今回モデル事業で取り組んだように、入所施設とピアカウンセラーやピアサポーターとをつなぐ、調整機能が必要になる。派遣や受入れ側の調整にかかる負担が大きいことが懸念されることから、こうした活動を事業化するような国の施策が必要である。

あわせて、市町村におけるピアカウンセリングの定着と、そうした人材の活用のための都道府県の人材育成と調整機能が必要であり、複数の市町村の利用者が入所する施設への働きかけや、広域的な調整については都道府県が調整機能を果たすことが必要であると思われる。

#### (4) 個別支援

今回の派遣事業では、入所施設職員は後方で受入れ調整に徹してもらい、入所施設利用者の地域生活移行への積極的な関与は、あえて求めなかった（自主的に参加してくれた職員はいた）が、集団説明会、個別面談、いずれにおいても意思形成支援としてピアカウンセラーやピアサポーターが関わり、入所施設利用者が具体的に地域生活移行をイメージし、地域での生活を希望するようになった場合、当然のことながら、施設における個別支援計画に大きく影響を及ぼすことになる。

入所施設職員にピアカウンセラーやピアサポーターの働きかけの意味と効果が充分理解され、入所施設利用者の個別支援計画の中に、ピアカウンセラーやピアサポーターが地域生活移行の支援者として位置づけられ、役割分担がなされていることが、地域生活の具体的なイメージ作りのうえで重要になってくる。

今回の試行事業を活かし、入所施設における地域生活移行支援の中にも、ピアカウンセリングの活用を位置づけていくよう働きかけが必要である。

## 2. 情報提供のためのツール作成

地域生活移行の意思形成、意向確認における視覚的にわかりやすい情報提供のツールとして、今回、多くの当事者や支援者の協力を得てビデオを作成した。

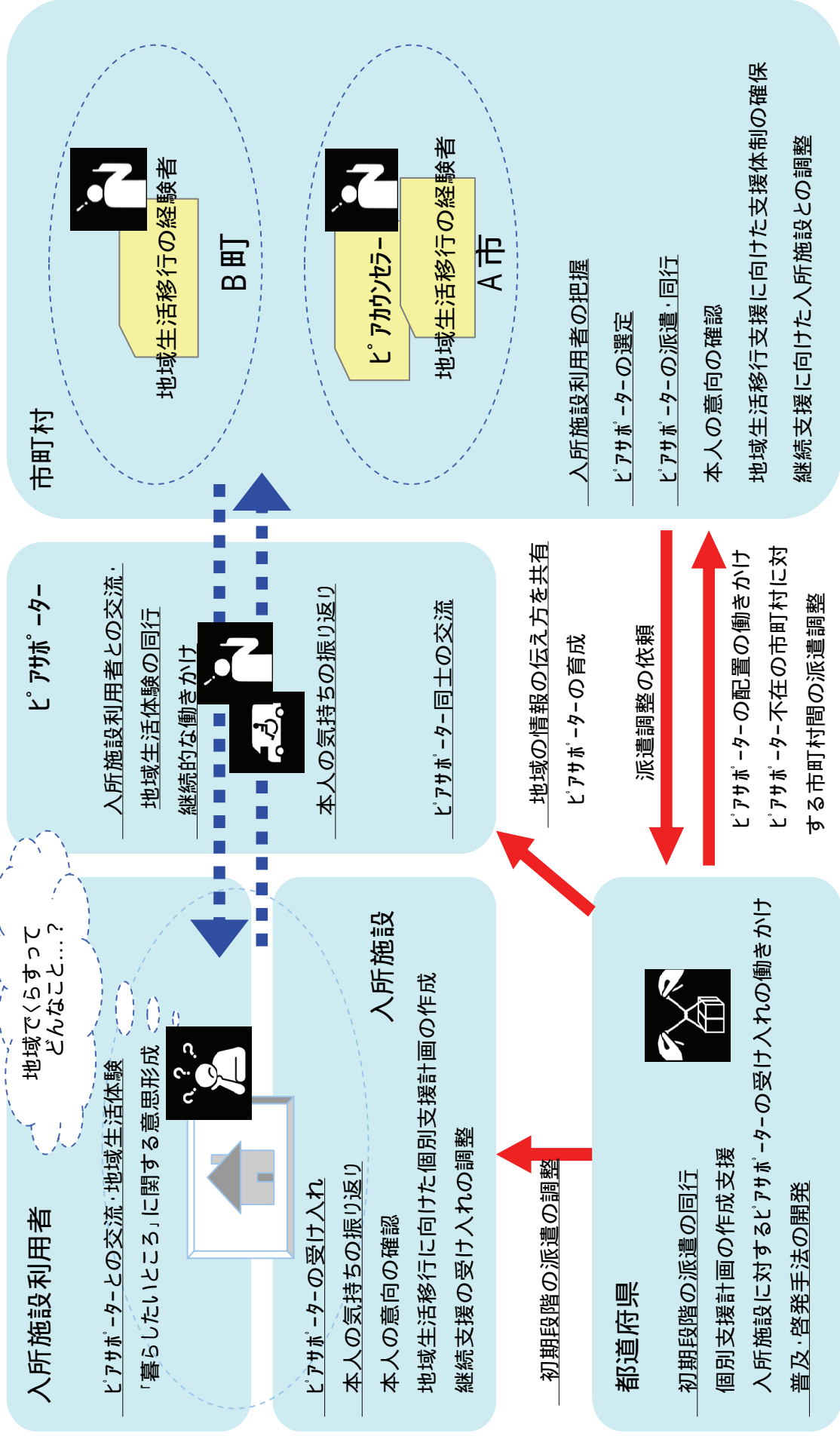
完成したビデオは、関係機関へ配布するとともに、府が主催する地域生活移行のための研修会等さまざまな機会において上映し、地域生活移行支援を啓発するためのツールとして活用する予定である。

また、地域自立支援協議会などにおいて、地域生活移行支援だけでなく、障がいのある人が地域で暮らし続けることについての理解を広めるためにも活用されることを期待している。

情報提供のツールとしては、今回実施したモデル施設へのピアサポーター派遣においても、それぞれの事業所が、パンフレットや写真を入れたパワーポイント資料など、それぞれの創意工夫でさまざまな情報の提供がなされた。このビデオも、それらのツールの一つとしてピアサポーターが実施する研修会などにおいて活用できると思われるが、各事業所が作成している情報の交換などを通し、共有できるツールの開発が必要である。

# イメージ図

## 地域生活移行支援におけるピアサポーターの活用



下線付きは、今回のモデル事業で試行した取組み、～は取組みのプロセス、は常時行う取組みをあらわす。



## 第 章

「活動の経過・参考資料」



1 - ( 1 ) モデル施設へのピアサポーター派遣の試行と検証  
(ピアサポーターの活動・施設別報告書)

# 1. モデル施設へのピアサポーター派遣の試行と検証

## (1) ピアサポーターの活動・施設別報告書

### 知的障がい者入所施設 A

#### 派 遣 報 告 書 ( 1 回 目 )

派遣先施設(事業所)	知的障がい者更生施設 A
派遣年月日	平成 21 年 2 月 3 日 ( 火 )
ピアサポーター	2 名
支援者	2 名
施設参加者	利用者 ~ 15 名 職 員 ~ 2 名
活動内容	施設での暮らしをふりかえる(楽しかったこと、いやだったこと) グループホームでの暮らしを紹介する
受付相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内でけんかの多いこと。</li> <li>グループホームでかかるお金について。</li> <li>家族の人が反対しているため、グループホームに出られない。</li> <li>病気のときや、けがの時が心配。</li> </ul>
ピアサポーター支援者の感想 気づいたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>勉強になった。</li> <li>アンケートの設問が難しい人が数名いた。</li> <li>最終的に家族の反対がある。</li> </ul>

#### 派 遣 報 告 書 ( 2 回 目 )

派遣先施設(事業所)	知的障がい者更生施設 A
派遣年月日	平成 21 年 2 月 12 日 ( 木 )
ピアサポーター	2 名
支援者	2 名
施設参加者	利用者 ~ 11 名 職 員 ~ 1 名
活動内容	グループホームの見学 設備の説明
受付相談内容	家族に相談してからという話があった。
ピアサポーター支援者の感想 気づいたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループホームに住みたくても、相談してからでなければ決められないようだった。</li> <li>見学してもらってよかった。</li> <li>興味をもって見学してもらった。イメージがもてたよう。</li> </ul>

派遣報告書(3回目)

派遣先施設(事業所)	知的障がい者更生施設 A
派遣年月日	平成21年2月26日(木)
ピアサポーター	2名
支援者	2名
施設参加者	利用者～ 15名 職員～ 4名
活動内容	生活介護事業所見学
受付相談内容	生活介護事業所の日課、作業、作品等について。
ピアサポーター 支援者の感想 気づいたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しそうな様子で、皆さんと活動の体験をしてもらった。</li> <li>・また、施設利用者の人に来てほしい。</li> </ul>

派遣報告書(4回目)

派遣先施設(事業所)	知的障がい者更生施設 A
派遣年月日	平成21年3月2日(月)
ピアサポーター	2名
支援者	2名
施設参加者	利用者～ 14名 職員～ 1名
活動内容	グループに分かれて、まとめ、感想について話す。
受付相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(前回見学した生活介護事業所について)おやつは出るか。</li> <li>・カラオケや買物は、どこに行くか。</li> </ul>
ピアサポーター 支援者の感想 気づいたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人はやりたいと思っけていても、家族が反対している人が多い。</li> <li>・家族の人にグループホームを見てもらったり、世話人さんに会ってもらったらよさそう。</li> <li>・意見や質問など、意外にたくさん具体的にしていた。</li> <li>・ピアサポーターさんが、身近な人だから話しやすかったよう。</li> <li>・今回の取り組みを今後に生かしたい。</li> </ul>

知的障がい者入所施設 B

派 遣 報 告 書 ( 1 回 目 )

派遣先施設 (事業所)	知的障がい者更生施設 B
派遣年月日	平成 2 1 年 1 月 2 3 日 ( 金 )
ピアサポーター	3 名
支援者	2 名
施設参加者	利用者 ~ 2 0 名 職 員 ~ 7 名
活動内容	地域での生活、結婚のこと、グループホームでの生活について、スライドで講演 地域移行についての説明
受付相談内容	地域移行について、知りたい。
ピアサポーター 支援者の感想 気づいたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな真剣に話をきいてくれた。</li> <li>・自分の生活のことを伝えられてよかった。</li> <li>・たくさんの方が参加してくれ、少しでも地域移行に対して関心を持っていただけたと思う。</li> <li>・今後も継続して関わることで、地域移行の意思形成を図っていききたい。</li> </ul>

派 遣 報 告 書 ( 2 回 目 )

派遣先施設 (事業所)	知的障がい者更生施設 B
派遣年月日	平成 2 1 年 2 月 2 3 日 ( 月 )
ピアサポーター	4 名
支援者	3 名
施設参加者	利用者 ~ 1 1 名 職 員 ~ 3 名
活動内容	グループホーム、生活介護事業所の見学 座談会
受付相談内容	地域での生活の様子を見学したい。
ピアサポーター 支援者の感想 気づいたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の日中活動の場やグループホームをみてもらったのはよかった。</li> <li>・みんなたくさん質問をしてくれてよかった。</li> </ul>

派 遣 報 告 書 ( 3 回 目 )

派遣先施設 (事業所)	知的障がい者更生施設 B
派遣年月日	平成 2 1 年 3 月 1 1 日 ( 水 )
ピアサポーター	3 名
支援者	2 名
施設参加者	利用者 ~ 6 名 職 員 ~ 名
活動内容	個別相談。地域移行について聞きたいことを自由

	に質問してもらう
受付相談内容	個別に詳しく話を聞きたい。
ピアサポーター 支援者の感想 気づいたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に話を聞いたことで、自由に質問してもらえたのがよかった。</li> <li>・ピアサポーターとのやりとりを楽しんでもらえてよかった。</li> </ul>

派 遣 報 告 書 ( 4 回 目 )

派遣先施設 ( 事業所 )	知的障がい者更生施設 B
派遣年月日	平成 2 1 年 3 月 1 9 日 ( 木 )
ピアサポーター	3 名
支援者	2 名
施設参加者	利用者 ~ 2 0 名 職 員 ~ 5 名
活動内容	生活介護事業所の説明 グループホームの生活についての説明
受付相談内容	地域での日中活動とグループホーム生活をもっとくわしく知りたい。
ピアサポーター 支援者の感想 気づいたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホームに「興味はない」と言われていた人も、まわりの人が質問したことの答えを聞いていて、自ら質問してこられることもあり、少しでも興味をもってくれたのかなと思いました。</li> <li>・グループでやりとりできてよかった。</li> </ul>

身体障がい者入所施設C

派 遣 報 告 書 ( 1 回 目 )

派遣先施設(事業所)	身体障がい者療護施設C
派遣年月日	平成21年1月20日(火)
ピアサポーター	2名
支援者	2名
施設参加者	利用者～8名 職員～1名
活動内容	入所施設から地域に出て暮らすに至るまでの経過 取り組みの体験談 グループホームの簡単な説明 地域に出での楽しみ(個別の自立生活プログラム を積み重ねてきた旅行の実現。私のお部屋の「ち よっと自慢」の写真提示)
受付相談内容	・グループホーム、福祉ホームの夜間の支援体制に ついて。 ・グループホームには、医師が毎日巡回にくるのか (病院との連携があるのかという医療に関する質 問)
ピアサポーター 支援者の感想 気づいたこと	・参加者は個人的にみて自立できそうな人たちがば かりだった。 ・医療関係の質問で、自分の場合はどうかと振り返 った。そしたら医者に行くタイミングなど支援者 と取り組む中で覚えた。施設は病院と併設されて いるところが多く、不安もあるのはわかるが、本 人の自己管理と支援者の協力、そして日常の医師 との関係作りをしていけば地域で暮らすことも可 能ではないか。 ・医療のことでこちらが取り組んでいることの補足 が十分できず、その点を含めて各入居者がどのよ うに医者と付き合い、支援者はどうしているのか、 また、訪問看護の入り方も詳しくまとめてみよう と思う。 ・もっと重度の人も来てほしかった。 ・参加者から色々質問が出され、特に夜間対応とい う具体的な質問が出てきたときは、「自立生活」へ の思いはあるというものがわかった。ただ、出て 行くためには不安などが多くあることが感じとれ た。 ・参加者の感想を、ピアサポーターにも知らせてほ しい。



派遣報告書(2回目)

派遣先施設(事業所)	身体障がい者療護施設 C
派遣年月日	平成21年2月19日(木)
ピアサポーター	2名
支援者	2名
施設参加者	利用者~6名 職員~2名
活動内容	地域で一人暮らしをしている障がいの話 公営の車椅子住宅、民間の住宅を改造して一人暮らしをしているイメージづくりを目的 制度的な不備やいろいろな苦勞もあったが、支援してくれる人の助けや同じ障がいを持つ仲間のアドバイスを受けて楽しく暮らしている。何事でもきっちりしないといけないものでもなく、それでも暮らしていけることも伝えたかった
受付相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜や日曜は介護がないといつていたが、困ったことはないのか。</li> <li>・緊急のときの対応はどうか。</li> <li>・常に医療が必要な場合の対応はどうか。</li> <li>・ケアプランをたてる時に必ず作業所に通わないといけないか。</li> </ul>
ピアサポーター支援者の感想気づいたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域生活」のしんどさばかりが強調されて受け取られてしまっている。</li> <li>・この事業だけの取り組みでは施設入所者にイメージを持ってもらえるのは難しい。継続的な取り組みが必要だ。</li> <li>・訪問看護やケアプランなど違ったとらえ方や情報も受け取っている印象があった。</li> <li>・施設の中での話や講座形式の取り組みだけでは今後は難しい。</li> <li>・少しずつでもいいから、地域で暮らしている障がいの暮らしぶりを見てみたり、グループホームなどで入居者と一緒に食事をしたり、地域の障がい者がどのように介護を受け、一日の一場面でもいいから共有できる取り組みも必要ではないか。</li> </ul>

派遣報告書(3回目)

派遣先施設(事業所)	身体障がい者療護施設 C
派遣年月日	平成21年3月12日(木)
ピアサポーター	2名
支援者	2名
施設参加者	利用者~5名 職員~1名
活動内容	グループホーム見学 入居者との話し合い
受付相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院がグループホームの近くにあっている。</li> <li>・呼び出しブザーが色々な形(障がいにあつた形)があるのがわかってよかった。</li> <li>・介護が(グループホームの)基本1対1なので安心できると思った。</li> <li>・思ったよりアットホームで普通の家を感じ(実際に見てわかることもあった)。</li> <li>・地域で暮らしと思うが、今の施設をでると家族が反対すると思う。</li> <li>・今の施設を離れると家族が近くに住んでいるので心配になる。</li> <li>・訪問看護はどれくらい来てもらえるのか(褥創などの処置)。訪問看護しているところを見てもらう(そのとき訪問看護員が入居者の方にきてもらっていたので)。</li> <li>・手芸などの趣味を持っているができるのか。</li> </ul>
ピアサポーター 支援者の感想 気づいたこと	全体的に実際に見ることによっていろいろイメージもわくという印象だった

身体障がい者入所施設D

派 遣 報 告 書 ( 1 回 目 )

派遣先施設(事業所)	身体障がい者療護施設 D
派遣年月日	平成 2 1 年 1 月 2 8 日 ( 水 )
ピアサポーター	2 名
支援者	2 名
施設参加者	利用者 ~ 1 5 名 職 員 ~ 4 名
活動内容	自己紹介 DVD「わたしの生活みい~つけた」上映 ピアサポーターの生活紹介 質疑応答 施設利用者に対し、地域生活のイメージを伝える。
受付相談内容	
ピアサポーター 支援者の感想 気づいたこと	やり取りも交えながらの生活紹介では、積極的に関わってきてくれたように感じた。大まかなイメージとしては少しは伝わったように思う。入所者それぞれに思いを持っている様子であった。 第 1 回目は伝えることがメインになってしまうので、2 回目以降で気持ちの引き出しをして頂ければ入所者の意識へのアプローチにもなると思う。

派 遣 報 告 書 ( 2 回 目 )

派遣先施設(事業所)	身体障がい者療護施設 D
派遣年月日	平成 2 1 年 2 月 9 日 ( 月 )
ピアサポーター	2 名
支援者	2 名
施設参加者	利用者 ~ 1 6 名 職 員 ~ 5 名
活動内容	ピアサポーターの生活体験を中心に紹介 プロジェクターでの写真紹介 グループディスカッション 質疑応答
受付相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルパーを 2 4 時間つけることができるのか。 ( 地域によるが、つけることは可能と伝えた。)</li> <li>・地域で生活することのイメージがわからない。 ( 次回の見学への参加を促し、実際の入居者の話を聞いてみるのがよいと伝えた。)</li> <li>・地域では、施設のような医療を受けることができるのか。 ( 家の近くの医療機関で診察を受けることも出来るし、往診や訪問看護も可能と伝えた。)</li> <li>・その他の意見：地域で生活しようとしてきたが、サポートを受けられず、施設での生活にやっとなれたので、地域に出る必要がない。</li> </ul>

<p>ピアサポーター 支援者の感想 気づいたこと</p>	<p>全体的に感じたことは、複数年による長期入所により、地域生活のイメージや、外出の方法、余暇の過ごし方などのイメージがわきにくくなっているように感じた。参加者の方々には、次回の福祉ホーム見学を勧めた。 一人一人の施設入所になった経緯が複雑であった。家族との関係、もともと住んでいた地域性、孤立感など、地域での限界を感じたときに相談できる場所がなく、結果的に、やむを得ず施設にたどりついたようであった。地域での相談、日中活動、介助派遣などの拠点の拡充を図らない限り、施設入所がなくなることはないと改めて感じた。</p>
--------------------------------------	---

派 遣 報 告 書 ( 3 回 目 )

派遣先施設 (事業所)	身体障がい者療護施設 D
派遣年月日	平成 2 1 年 2 月 2 6 日 (木)
ピアサポーター	2 名
支援者	2 名
施設参加者	利用者 ~ 8 名 職 員 ~ 5 名
活動内容	福祉ホームの見学 入居者 1 日密着 DVD 鑑賞 入居者、ピアサポーターと交流 ・ 地域での生活を見学し、イメージ作りをする。 ・ 地域で生活している障がい者と交流をもつ。
受付相談内容	
ピアサポーター 支援者の感想 気づいたこと	見学会、交流会とも、楽しんでいらっしやる様子は見られたが、最後のアンケートでは「このまま施設で」という回答が多かった。 聞き取りや交流会の中で「身体のことがあるから」「わたしは出来ないから」という意見も目立った。「なぜ施設がいいのか」を聞き取りできれば、また違った内容になってくるように思う。

派 遣 報 告 書 ( 4 回 目 )

派遣先施設 (事業所)	身体障がい者療護施設 D
派遣年月日	平成 2 1 年 3 月 4 日 (水)
ピアサポーター	2 名
支援者	2 名
施設参加者	利用者 ~ 7 名 職 員 ~ 5 名
活動内容	生活介護事業所見学 通所者の日中活動紹介と DVD 鑑賞 ピアサポーター講演会と交流会

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で生活している障がい者と交流を持つ。</li> <li>・障がい者の日中活動を知る。</li> <li>・ピアサポーターの自分史を聞く。</li> </ul>
受付相談内容	
ピアサポーター 支援者の感想 気づいたこと	<p>障がい者の人たちが主体で日中活動を行っている様子に驚いていた面が見られた。地域で生活している人たちの話を聞いて、自立したい気持ちが強くわいてきたとの意見が出ていた。</p> <p>反面、アンケートでは金銭面などでの不安を持っている人もいたが、以前の講演会の時よりも地域で生活したいと答えた人が増えていた。</p>

### 派遣報告書(5回目)

派遣先施設(事業所)	身体障がい者療護施設 D
派遣年月日	平成21年3月12日(木)
ピアサポーター	1名
支援者	1名
施設参加者	利用者 ~ 8名 職員 ~ 4名
活動内容	<p>参加者の自己紹介 施設利用者、職員もあわせて2グループに分かれてフリートキング形式で今までの感想や質問を出し合い交流する 府からのアンケート調査の実施 府担当者から事業協力への謝意と挨拶</p>
受付相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は緊張したけれど、地域での生活に興味を持った。</li> <li>・福祉ホームがよかった。広いし、テレビもゆつくり見れそう。</li> <li>・作業所にはいろいろな人がいて、私には合わないかもと思った。</li> <li>・体調を崩したときが不安だ。</li> <li>・今は、周りに人がたくさんいるけれど、地域に出たらさびしくなりそう。</li> </ul>
ピアサポーター 支援者の感想 気づいたこと	<p>フリートキングでざっくばらんに話ができよかった。なかなかうまく表現できない人もいたが、やりたいことがいろいろありそうだったと思った。</p> <p>若い人は、地域移行に積極的に意欲を示されたが、年齢とともに、本当に出来るのだろうかと不安感が強くなるように感じた。</p> <p>長年の施設での生活から、地域に出て暮らすことの不安を感じるのは当然だが、「それでも出たい。」という、表に出ないが隠された気持ちを感じる事ができた。</p>

身体障がい者入所施設 E

派 遣 報 告 書 ( 1 回 目 )

派遣先施設 (事業所)	身体障がい者療護施設 E
派遣年月日	平成 2 1 年 1 月 2 1 日 (水)
ピアサポーター	2 名
支援者	2 名
施設参加者	利用者 ~ 1 3 名 職 員 ~ 2 名
活動内容	自己紹介 DVD「わたしの生活みい~つけた」上映 ピアサポーター 3 名より生活紹介 質疑応答 施設障がい者に対し、地域生活のイメージを伝える。
受付相談内容	
ピアサポーター 支援者の感想 気づいたこと	積極的に話を聞いている入所者が多かった。ただし、なかなか地域移行を実行することには不安があるようにも感じた。今回は、時間の関係上、伝えることが中心になった。第 2 回目以降は交流の時間もとって頂ければと思う。

派 遣 報 告 書 ( 2 回 目 )

派遣先施設 (事業所)	身体障がい者療護施設 E
派遣年月日	平成 2 1 年 2 月 6 日 (金)
ピアサポーター	2 名
支援者	2 名
施設参加者	利用者 ~ 1 6 名 職 員 ~
活動内容	参加者との交流
受付相談内容	
ピアサポーター 支援者の感想 気づいたこと	初対面で、自立生活の動機や現在の暮らしなどを話し、地域生活のイメージを描いてもらうことに難しさを改めて感じた。なかでも事故や病気で受障された方は、自立 = 就労のイメージが強く、「仕事ができないのに生活できない」と言われた場面が印象的であった。 反面、地域生活に関心を持つ方も少なくなく継続的な関わりと施設以外の経験を積む機会の必要性を実感した。参加者の中でも「地域で生活したい」という気持ちの大きさはバラバラで、やはり一人ずつ話し合える場が必要かなと思う。地域で暮らしたいけれど、具体的にどう動いたら良いのか、何からはじめたら実現できるのかななどの細かなイメージを話し

	合ううちに、だんだん自分のことと思えてくるのかなと感じた。
--	-------------------------------

### 派遣報告書(3回目)

派遣先施設(事業所)	身体障がい者療護施設 E
派遣年月日	平成21年2月24日(火)
ピアサポーター	4名
支援者	2名
施設参加者	利用者~5名 職員~3名
活動内容	生活介護事業所の見学 地域で自立して生活している障がい者の体験紹介
受付相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日決まった作業をして、お金をもらっているのか。</li> <li>・自立体験宿泊の際、ヘルパーに何をしてもらって、何をしてもらわないかはどう決めましたか。</li> </ul>
ピアサポーター支援者の感想 気づいたこと	見学者から質問など積極的な発言があり、関心の大きさを感じた。

### 派遣報告書(4回目)

派遣先施設(事業所)	身体障がい者療護施設 E
派遣年月日	平成21年3月3日(火)
ピアサポーター	2名
支援者	2名
施設参加者	利用者~5名 職員~3名
活動内容	地域で自立して生活している障がい者宅訪問
受付相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光熱水費はいくらか。</li> <li>・家賃はいくらか。</li> <li>・家探しはどうしましたか。</li> </ul>
ピアサポーター支援者の感想 気づいたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアサポーターの話を集中して聞いてくれていたが、質問などがあまりなかつたため、どれくらい伝わったか、不安でもある。</li> <li>・施設職員とのやりとりばかりになってしまった。</li> <li>・継続的に参加して取り組むほうが、イメージが付きやすいのではないかと思う。</li> </ul>

派遣報告書(5回目)

派遣先施設(事業所)	身体障がい者療護施設 E
派遣年月日	平成21年3月3日(火)
ピアサポーター	2名
支援者	2名
施設参加者	利用者~14名 職員~3名
活動内容	ワークショップを用いた当事者参加型のアンケート調査
受付相談内容	
ピアサポーター 支援者の感想 気づいたこと	今回のようなワークショップを本事業の最初に行ったほうがよかったのではないかと。まずはワークショップで参加者が個々の気持ちを表現する方法を知り、自立とは何かを考える力をつけ、ある程度イメージを作ってから、その後の体験紹介や見学等を通してそのイメージに色をつけていってもらったほうがよかったのではないだろうか。また、生活支援センターとしては、もう少し時間をかけて参加者の気持ちを引き出せればよかったと思う。



1 - ( 2 ) モデル施設へのピアサポーター派遣試行と検証  
～入所施設利用者に対するアンケート結果～

(2) 入所施設利用者に対するアンケート集計結果 \*モデル施設の利用者を対象に実施

【初回アンケート集計結果】

記入者について。

	本人が記入	聞き取りで支援者が記入	対象者数
知的障がい者 入所施設	13 41.9%	18 58.1%	31
身体障がい者 入所施設	6 18.2%	27 81.8%	33

あなたは、グループホームやケアホームで生活している人の話を聞いてどう思いましたか。  
あてはまるものに、いくつでもをつけてください。(複数回答)

	対象者数	関心を 持った	おもしろ そう楽し そうだっ た	難しそう 大変そう だった	わから ない	その他
知的障がい者 入所施設	31	11 35.5%	18 58.0%	11 35.5%	1 3.2%	1 3.2%
身体障がい者 入所施設	33	20 60.6%	15 45.5%	11 33.3%	7 21.2%	2 6.1%

- ・ピアサポーターの体験紹介を聞いた後の結果である。知的障がい者施設利用者においては、「おもしろそう・楽しそうだった」の割合が高い。身体障がい者入所施設利用者では、「関心を持った」の割合が高い。全体においても、グループホーム・ケアホームでの生活について興味・関心を持っている状況である。

あなたは、これからどこで生活したいとおもっていますか。どれか一つにをつけてください。

	対象者数	このまま今の施設 で生活したい	今の施設とは 違うところで生活 したい	どこでもよい 決められない わからない	その他
知的障がい者 入所施設	31	12 38.7%	13 41.9%	3 9.7%	3 9.7%
身体障がい者 入所施設	33	12 36.4%	10 30.3%	5 15.2%	6 18.2%

- ・知的障がい者施設利用者では、「今の施設とは違うところで生活したい」の割合が、「このまま今の施設で生活したい」よりわずかに多い。身体障がい者施設利用者では、逆の結果となっている。全体としては、「このまま今の施設で生活したい」が「今の施設とは違うところで生活したい」をわずかに上回っている。

いま、しせつ、せいかつ  
今の施設での生活について、あなたが思っていることに、いくつでもをつけてください。  
(複数回答)

	対象者数	施設での生活が楽しい	施設で暮らしていると日常生活(食事、日中の活動、遊びなど)に困らない	施設では困ったことがあっても、すぐに相談にのってくれる人がいる	施設ではいろいろな規則(きまり)が多い	施設ではプライバシーがまもられない	施設では自分のしたいことを自由にできない	わからない	その他
知的障がい者 入所施設	31	17 54.8%	17 54.8%	15 48.4%	12 38.7%	8 25.8%	10 32.3%	2 6.5%	3 9.7%
身体障がい者 入所施設	33	19 57.6%	21 63.6%	13 39.4%	17 51.5%	12 36.4%	16 48.5%	3 9.1%	4 12.1%

- ・現在の施設での生活についての感想である。知的障がい者施設利用者・身体障がい者施設利用者ともに、「施設で暮らしていると日常生活に困らない」「施設での生活が楽しい」と捉えている。一方で、「施設では、色々な規則(きまり)が多い」の割合が、全体でも次いで多くなっている。

しせつ、て、せいかつ  
施設を出て生活することについて、あなたが感じたり、思ったりすることはどのようなことですか。あてはまるものに、いくつでもをつけてください。(複数回答)

	対象者数	施設を出て生活しても、困ることはない	施設を出て生活するのは楽しそう	施設を出ても、支えてくれる人がいるので安心です	施設を出ても、相談する人がいるので自信はないが、施設をでて何とかが生活していけると思う	施設を出ると、相談する人がいなくなるので困りそう	施設を出ると、昼間かまうところ(日中活動の場、仕事)がみつかるか心配です	家族が心配するので、施設を出たくない	施設を出て生活する自信がない	施設を出ると自分のお金で生活できるか心配です	施設をでてと調理、掃除や洗濯など家事援助)で困る	施設をでてと食事、入浴や排泄など身体介護)で困る	現在の病気(障がい)を定期的に診てくれる病院が地域にあるか心配です	わからない	その他
知的障がい者 入所施設	31	9 29.0%	21 67.7%	11 35.5%	11 35.5%	10 32.3%	6 19.4%	10 32.3%	7 22.6%	9 29.0%	7 22.6%	4 12.9%	6 19.4%	5 16.1%	0 0.0%
身体障がい者 入所施設	33	7 21.2%	19 57.6%	6 18.2%	13 39.4%	16 48.5%	17 51.5%	14 42.4%	13 39.4%	21 63.6%	18 54.5%	23 69.7%	22 66.7%	4 12.1%	0 0.0%

- ・施設を出て生活することについて、全体及び知的障がい者施設利用者は、「施設を出て生活するのは、楽しそう」の割合が高くなっているが、身体障がい者施設利用者では、「施設を出ると食事、入浴や排泄など(身体介護)で困る」の割合が高い。障がい特性に応じた意見であり、支援が必要なところである。

あなたが、施設<sup>しせつ</sup>以外<sup>いがい</sup>のところで生活<sup>せいかつ</sup>するとしたら、どのようなところで生活<sup>せいかつ</sup>したいですか。あてはまるものに、一つだけ <sup>ひと</sup>をつけてください。

	対象者数	グループホームやケアホームで生活したい	自分の家に帰って生活したい	住むところを借りて生活したい	今いる施設とは違う別の入所施設で生活したい	今いる施設以外で生活することは考えられない	わからない	その他
知的障がい者 入所施設	31	11 35.5%	10 32.3%	1 3.2%	0 0.0%	3 9.7%	1 3.2%	5 16.1%
身体障がい者 入所施設	33	9 27.3%	3 9.1%	5 15.2%	2 6.1%	9 27.3%	4 12.1%	1 3.0%

- ・ピアサポーターの体験を聞いた後での生活場所についてである。全体及び知的障がい者施設利用者においては、「グループホームやケアホームで生活したい」の割合が高い。一方、身体障がい者施設利用者では、「今いる施設以外で生活することは考えられない」の割合が高い。前出の問いにも、関係してくるところである。

あなたが、<sup>いま</sup>今の生活<sup>せいかつ</sup>について<sup>おも</sup>思っていることを、<sup>じゆう</sup>なんでも自由<sup>か</sup>に書いてください。

(現在入所している施設での生活に関する自由記述)

- ・絵を書いたり、クロスワードやテレビを見るのが楽しいです。
- ・お花が好き。カラオケ好き。旅行に行きたい。
- ・今のところは、元気にやっているから今の暮らし（施設の暮らし）で、同室の人と仲良くしている。
- ・楽しい。がんばっている。
- ・園がいいと思う。でも、妹には会いに来てほしい。
- ・困ることはあるが、園で暮らしたいと思う。ホームでの生活もいいなあと思う。
- ・けんかが多い。いっぺんに大きな声で言うのがいや。
- ・心配なことがあるそう。
- ・ちょっとわからない。
- ・お風呂では、リフトをつかっているが便利である。
- ・部屋で時々、同じ部屋の人ともめることがある。
- ・早くグループホームに、4月には行きたい。

- ・けんかしたら止められないから、心配。
- ・リサイクルでアルミ缶つぶしが楽しいです。
- ・友人関係がうまくいかなくてすぐけんかしたりするけれど、すぐなかなおりする。
- ・わりとしたいことをしている。このままの生活をつづけられたらいい。
- ・部屋について、個室であつたらいいと思う。
- ・将来的には、老人ホームか。経済的な問題が心配。
- ・まわりに会話できる人がいない。
- ・現在の生活ペースを守りながら、自分なりに生活していけたらと思う。
- ・自立はしたいけれど、現状の社会のことを考えるとなかなか難しい。  
もう少し、自分に力をつけてから考えたい。
- ・いまのこの生活しか考えられない。
- ・まずはグループホームやケアホームで生活してみたいという気持ちはある。
- ・これでいいと思っています。
- ・自立しても、仕事はあるか。
- ・一回ここを出て、一人で暮らしたい。
- ・金のほうが心配です。

【見学時アンケート集計結果】

記入者について。

	本人が記入	聞き取りで支援者が記入	対象者数
知的障がい者 入所施設	5 13.5%	32 86.5%	37
身体障がい者 入所施設	8 29.6%	19 70.4%	27

あなたは、グループホームやケアホーム、または（<sup>けんがく</sup>）を見学して  
どう思いましたか。あてはまるものに、いくつでも <sup>おも</sup> をつけてください。（複数回答）

	対象者数	関心を持った	楽しそうだった おもしろそう・ 楽しそうだった	難しそう大 変そうだった	わからない	その他
知的障がい者 入所施設	37	14 37.8%	31 83.8%	7 18.9%	2 5.4%	0 0.0%
身体障がい者 入所施設	27	14 51.9%	15 55.6%	9 33.3%	2 7.4%	6 22.2%

- ・実際に、グループホームやケアホーム、日中活動事業所を見学しての感想である。知的障がい者施設利用者及び身体障がい者施設利用者ともに、「面白そう・楽しそう」「関心を持った」の割合が高い。ただ、「難しそう・大変そうだった」については、身体障がい者施設利用者の割合が高い。

あなたは、これからどこで生活したいと思っていますか。  
どれか一つに <sup>ひと</sup> をつけてください。

	対象者数	このまま今の施設で 生活したい	今の施設とは違う ところで生活したい	どちらでもよい 決められない わからない	その他
知的障がい者 入所施設	37	8 21.6%	16 43.2%	10 27.0%	3 8.1%
身体障がい者 入所施設	27	14 51.9%	8 29.6%	2 7.4%	3 11.1%

- ・見学した後に、これから希望する生活の場をたずねたものである。知的障がい者入所施設利用者は、「今の施設とは違うところで生活したい」の割合が高いが、身体障がい者施設利用者は、「このまま今の施設で生活したい」の割合がかなり高い。半数以上である。この点については、社会資源の設備等も踏まえ、利用者の意向や障がい特性に十分な配慮が必要と思われる。

その他、あなたがグループホームやケアホーム、または（  
とを、なんでも自由に書いてください。

）を見学して感じたこ

(見学をしてからの自由記述)

- ・こういうところで住みたいと思った。
- ・お姉さんにもホームをみてほしい。
- ・整理するのが大変そうやった。
- ・迷子になったら困るからホームは大変そう。
- ・園に近いところなら道も覚えているので安心かな。
- ・おもしろかった。
- ・いい空気が吸えたし、グループホームがいいなあと思った。
- ・手すりがついていないので、大変。
- ・女性の居室がよかった。
- ・他のグループホームも知っているの、そこもいいなあと思った。
- ・グループホームで暮らしてみてもいいなあと思うけど、園も気になる。
- ・階段は、こわかった。
- ・楽しかった。
- ・ベッドにマットが置いてあった。それが、楽しかった。
- ・部屋がきれいだった。
- ・ぬいぐるみがたくさんあった。
- ・階段のぼる時に足が痛かった。
- ・テレビとか部屋にあっていいなあ。カラオケもあつたらいいなあ。
- ・作品と一緒に作って楽しかった。
- ・好きなことを自分で選んでしているのがいいと思った。
- ・いろいろパンフレットをもらって帰りたい。
- ・みんな楽しそう。私もきたい。
- ・非常によかった。おへやみせてくれてよかった。
- ・楽しかった。案内してくれてよかった。
- ・楽しそうだと思った。
- ・内職できたらいいなあと思った。
- ・はかないです。
- ・医療関係が心配です。
- ・自分のニーズに沿って、住環境を整えるのに、課題と不安があります。  
(お風呂場、廊下、キッチン、障がい者用車椅子で対応できるようになっていない。)
- ・医療関係については、入居者さんのお部屋に訪問看護の方がいらしたので、聞きました。
- ・個室が魅力です。
- ・楽しかった。VTRよかった。
- ・特にない。
- ・わからない。
- ・手を洗うところが、印象に残っている。

- ・誰でも一人で暮らしたいと思う。
- ・金銭面で不安あり。
- ・今現在わからない。
- ・みんな生き活きとしているので、自立したい気持ちが強くわきました。
- ・施設よりプログラムが多かった。
- ・絵画に俳句を付けるプログラム、おすすめします。
- ・食べ物、おいしそうに食べている所。
- ・買い物に行きたい。歌のテープを買いたい。
- ・いろいろな人の話で、どんどん外に行けるのがうらやましい。
- ・交流会もよかった。
- ・大変よかった。
- ・特にありません。
- ・自立生活は、お金が足りるのか心配。
- ・びっくりした。
- ・地域で生活するのは、大変そうであった。
- ・体調を崩した時に施設でなければすぐにみてもらえない。



【最終回アンケート集計結果】

記入者について

	本人が記入	聞き取りで支援者が記入	対象者数
知的障がい者 入所施設	9 30.0%	21 70.0%	30
身体障がい者 入所施設	7 26.9%	19 73.1%	26

あなたは、グループホームやケアホームで生活している人の話を聞いたり、  
実際にグループホームやケアホームなどを見学して、どう思いましたか。

あてはまるものに、いくつでもをつけてください。（複数回答）

	対象者数	関心を持った	おもしろそう・楽しそうだった	大変そうだった・難しそう・	わからない	その他
知的障がい者 入所施設	30	14 46.7%	22 73.3%	5 16.7%	3 10%	0 0.0%
身体障がい者 入所施設	26	12 46.2%	18 69.2%	10 38.5%	4 15.4%	0 0.0%

- ・ピアサポーターの体験紹介や社会資源の見学後の感想についてである。全体としては、「おもしろそう・楽しそうだった」の割合が高い。この結果は、初回及び見学時の結果に比べ知的障がい者施設利用者、身体障がい者施設利用者とも最終回の方が割合が高くなっている。一方、「難しそう・大変そうだった」については、知的障がい者施設利用者の場合、初回 見学時 最終回と割合は減ってきている（35.5% 18.9% 16.7%）が、身体障がい者施設利用者の場合、この割合は大きく変わらなかった。（33.3% 33.3% 38.5%）。身体障がい者施設利用者は、楽しそうと思う人が増えたものの、同時に大変さを感じている人の割合も増えた。

施設を出て生活することについて、あなたが感じたり、思ったりすることはどのようなことですか。  
 あてはまるものに、いくつでもをつけてください。（複数回答）

対象者数		施設を出て生活しても、困ることはない	施設を出て生活するのは楽しそう	施設を出ても、支えてくれる人がいるので安心です	自信はないが施設をでてでも何とか生活していけると思う	施設を出ると、相談する人がいなくなるので困りそう	施設を出ると、昼間がよつとろろ日中活動の場、仕事）がみつかるか心配です	家族が心配するので、施設を出たくない	施設を出て生活する自信がない	施設を出ると自分のお金で生活できるか心配です	施設をでてと調理、掃除や洗濯など（家事援助）で困る	施設を出ると食事、入浴や排泄など（身体介護）で困る	現在の病気がいを定期的に診てくれる病院が地域にあるか心配です	わからない	その他
		知的障がい者入所施設	30	8 26.7%	18 60.0%	20 66.7%	10 33.3%	12 40.0%	9 30.0%	14 46.7%	10 33.3%	14 46.7%	10 33.3%	5 16.7%	15 50.0%
身体障がい者入所施設	26	6 23.1%	13 50.0%	10 38.5%	12 46.2%	13 50.0%	15 57.7%	11 42.3%	11 42.3%	17 65.4%	15 57.7%	20 76.9%	18 69.2%	3 11.5%	1 3.8%

- ・今回の事業での体験紹介や見学を踏まえて、地域で生活することについて同じ項目で質問した。知的障がい者施設利用者では、「楽しそう」という項目や「地域には支えてくれる人がいて安心」などの項目の割合が増える一方で、「施設を出ると自分のお金で生活できるか心配です。」の項目が29.0%から、46.7%に増えており、身体障がい者施設利用者の場合も、「地域には支えてくれる人がいて安心」「何とか生活していける」などの項目の割合が増えたものの、「施設を出ると食事、入浴や排泄など（身体介護）で困る」など支援に関する不安項目の割合が、初回よりむしろ増えている。関連する情報を得るにつれて、地域生活移行に関するイメージや課題が現実の問題として具体的になってきているものと思われる。

【参考】平成19年度実施「地域移行に向けた移行調査」集計結果

平成20年3月「地域移行に向けた移行調査 分析報告書」P135

表28-1 施設を出て暮らすことについて、感じたり思ったりすること（大阪府）

施設種別	対象者	困ることはない	楽しそう	支えてくれる人がいるので安心	なんとか暮らしていけそう	相談する人がいなくなり困りそう	日中活動の場がみつかるか心配	家族が心配するから退所したくない	自信がない	自分のお金で生活できるか心配	調理、掃除等（家事援助）で困る	食事、入浴、排泄等（身体介護）で困る	今の病気を定期的に診てくれる病院があるか心配	わからない	その他
身体障害者入所施設	526	62 11.8%	153 29.1%	80 15.2%	108 20.5%	204 38.8%	186 35.4%	224 42.6%	294 55.9%	286 54.4%	345 65.6%	356 67.7%	221 42.0%	58 11.0%	11 2.1%
合計	1243	211 17.0%	445 35.8%	258 20.8%	296 23.8%	475 38.2%	450 36.2%	439 35.3%	538 43.3%	592 47.6%	646 52.0%	548 44.1%	441 35.5%	213 17.1%	36 2.9%

\*上表は、H19.7.1現在大阪府内の入所施設に在籍していた人を対象に実施した悉皆調査で、今回同様の質問に対し、「本人が記入」及び「本人からの聞き取りで支援者が記入」した人の集計結果である。昨年度の調査では、今回のように動機付けや事前の情報提供をしないで実施したので単純に比較はできないが、身体障がい者施設利用者では、前回調査結果では、地域生活を楽しそうと感じる人が今回の調査結果より低いものの、同時に不安を感じる項目も今回の調査結果より低く出ており、上述のとおり、実際の地域生活移行に際しては、解決していかなければならない課題も具体化してくるものと思われる。

あなたは、これからどこで生活したいとおもっていますか。どれか一つにをつけてください。

	対象者数	このまま今の施設で生活したい	今の施設とは違うところで生活したい	どちらでもよい。決められない。わからない	その他
知的障がい者 入所施設	30	11 36.7%	10 33.3%	4 13.3%	5 16.7%
身体障がい者 入所施設	26	12 46.2%	9 34.6%	3 11.5%	2 7.7%

- ・ 今後の生活の場所についてであるが、「このまま今の施設で生活したい」と「今の施設とは違うところで生活したい」については、初回 見学 最終回の間で増減があり、傾向として一定ではなかった。身体障がい者施設利用者においては、各回のアンケートとも、「このまま今の施設で生活したい」の割合が、「今の施設とは違うところで生活したい」を上回る結果となった。

あなたが、施設以外のところで生活するとしたら、どのようなところで生活したいですか。あてはまるものに、一つだけをつけてください。

	対象者数	グループホームやケアホームで生活したい	自分の家に帰って生活したい	住むところを借りて生活したい	今いる施設とは違う別の入所施設で生活したい	今いる施設以外で生活する ことは考えられない	わからない	その他
知的障がい者 入所施設	30	13 43.3%	7 23.3%	0 0.0%	2 6.7%	1 3.3%	3 10.0%	4 13.3%
身体障がい者 入所施設	26	6 23.1%	4 15.4%	4 15.4%	2 7.7%	8 30.8%	0 0.0%	2 7.7%

- ・ 今後、施設以外で暮らすとしたら、どのような生活の場を希望するかについての質問である。知的障がい者施設利用者では、「グループホームやケアホームで生活したい」の割合が高く、初回に比べ、35, 5%から 43.3%に増加している。身体障がい者施設利用者では、初回と最終回の変化があまりみられず、「今いる施設以外で生活することは考えられない」の割合が、27.3%から 30.7%に増加した。それぞれの人が現実の課題を知ることで感じるさまざまな課題について、先の質問（感じたり思ったりすること）とも併せ、きめ細かく一人ひとりに働きかけていくような思いに寄り添う支援についての検討も必要であると思われる。

あなたが、これからの生活<sup>せいかつ</sup>について思<sup>おも</sup>っていることを、なんでも自由<sup>じゆう</sup>に書<sup>か</sup>いてください。

(これからの生活に関する自由記述)

- ・ 友だちといっしょにホームで暮らしたい。毛糸をあみたい。
- ・ グループホーム、作業所を見学して楽しかった。
- ・ 仕事をしたい。
- ・ 見学しておもしろかった。一度、泊まりたい。
- ・ むずかしい。
- ・ 見学して楽しかった。
- ・ 作業所で仕事をしたい。
- ・ 見学してよかった。
- ・ お店が近くにあればいいなあと思う。趣味の手芸などを教えてくれる人がいれば安心。
- ・ 一度グループホームに行きたい。
- ・ グループホームで生活してみたい。
- ・ 母が自宅で一人で生活している。そのことも、心配。
- ・ 家に帰ると、妻も体の具合が悪いので無理がきかない。今は、この施設での生活となる。
- ・ グループホームを見学した時に、色々なサービスが受けられるか心配になった。
- ・ 地域移行について、どれだけ理解して生活できるか不安。
- ・ 日中の作業がどれ位できるか、そのあたりが心配。
- ・ 医療関係の状況がこれからどうなるか、不安です。
- ・ グループホーム、ケアホームに入って旅行がしたい。
- ・ 排泄などのことが心配です。
- ・ 野球観戦をしに甲子園に行きたい。
- ・ ひとりで生活したら、排泄のことが心配。
- ・ 洋菓子作り、販売等をしたい。
- ・ 実際にグループホームに行って、色々なことを体験してみたい。出ようと思えば、出れるのかもしれないと思った。前は、出られないと思った。トイレが心配だった。食事は、自分のテーブルつけている。介助してくれるかなと思った。
- ・ 友だちとなかよくしたい。作業などしたい。体を大切にしたい。
- ・ 家に帰りたい。妹と二人で暮らしたい。
- ・ 自立にあたり、仕事があるだろうか。
- ・ 自分の健康が一番心配です。
- ・ お金が心配。園を出たら、友達とかしゃべる人がいなくなるから淋しい。
- ・ 今はなにも考えていない。

1 - ( 3 ) モデル施設へのピアサポーター派遣試行と検証  
～ピアサポーターからの報告～

### (3) ピアサポーターからの報告

#### ピアサポーター感想(知的障がい者入所施設訪問)

今回、施設にいてよかったです。いろいろな人であえたのがよかったです。

入所施設にいる人は、グループホームや地域で生活したらいいと思う。ひるまは、ちいさでしごととして、しごとおわって、家やグループホームにかえって、じぶんのすきな時間をすごせたらいいと思います。

僕も、昔入所施設にいたことがありました。入所施設にはいるときに、親とはなれるのはさびしかった。なんで、僕は施設にはいらなあかんのかわからなかった。でも、しょうがないと思って入所施設に行った。お兄さんが探してくれたから、行くしかなかった。

施設にいる時、職員さんに「グループホームがあるよ。1回体験してみない。」と誘われた。はじめは、どんなところか分からなかったのが不安でした。でも、体験してみると自由に過せたり、テレビも見れたりしたので、グループホームがいいなと思って、グループホームに行く事に決めました。

グループホームに行ったらすぐは、不安がいっぱいでした。分からないこともたくさんありました。寝る時間も自分で決めていいと言われて、何時に寝たらいいのが困りました。でも、だんだん慣れてきました。いまは、グループホームがさいこうとおもっています。

僕は、今結婚して奥さんと2人で暮らしています。

施設では、結婚のはなしをたくさんきかれました。結婚はかんたんにできるものではないです。おたがい、好き同士になって、つきあって、デートしたりして、やっと出来ます。そのことも話しました。みんなすごきょうみを持っていたなと思います。

障がいが重くても地域でくらすとおもいます。むかし、僕が施設にいた時に同じ部屋だった障がいの重い人が、いまパンジーのグループホームで暮らしています。そのひとは、自分で思っていることは伝えられないけど、いまは楽しそうにしています。

好きな事ができたり、自由にできたほうがいいとおもいます。

施設の人たちも、ちいさで生活できたらいいと思います。最初は不安やけど、なれたら大丈夫とおもいます。ぼくも、これからも応援していきたいとおもいます。

1 - ( 4 ) モデル施設へのピアサポーター派遣試行と検証  
～ 派遣調整事業所からの報告～

#### (4) 派遣調整事業所からの報告

##### モデル施設へのピアサポーター派遣について

知的障がい者入所施設派遣事業所 担当者

###### < 取組みの概要 >

知的障がい者入所施設に、既に入所施設からグループホーム・ケアホーム(以下ホームとする)を利用した地域生活に移行した経験をもつピアサポーター2名を、計4回派遣し、施設利用者に地域での生活の様子について紹介したり、ホームや日中活動の場所を見学する取組みを行い、施設利用者が地域での生活を知る機会とした。また、参加した施設利用者が自らの施設での生活についてあらためて振り返り、一人ひとりが将来どのような生活をしたいか、それを実現するにはどのようなことが難しいと感じているかを考える機会をつくり、同じ立場の仲間たちと、自らの気持ちを話し合い、気持ちを共有し合うことにより、今後の自らの生活を考えるきっかけとした。

###### < 取組みの内容 >

	内 容
1回目	・入所施設での生活を振り返る（施設で楽しかったこと、いやだったこと） ・ホームの生活紹介（スライド） ・日中活動の紹介(スライド) ・質疑応答
2回目	・ホームの見学と説明
3回目	・日中活動場所(生活介護事業所)見学と説明。 ・活動体験
4回目	・感想 ・将来の自分の暮らしについて

###### < 経過 >

###### スライド等を活用した説明

派遣されたピアサポーターは2名とも、以前にこの施設に入所していた方であったため、参加した施設利用者には馴染みが深く、リラックスした雰囲気であった。

1回目、ピアサポーターから、以前の施設に入所していたときの経験を思い出して話し、そこから参加者自身の現在の施設内での生活で「楽しいこと」「ちょっといやなこと」について話す機会をつくった。自分の生活をあらためて振り返って、その思いを遠慮なく話す機会はとても新鮮だったようで、日々の生活で楽しみに思っている活動や、大人数で生活する施設内の騒々しさ、気が合わない人との人間関係や、外出の機会が少ないことなど、それぞれの思いを一生懸命に語る様子があった。



その後、ピアサポーターが暮らすホームの様子や、日中活動の場の様子など、写真をまじえたスライドを活用して紹介をし、参加者は興味をもってスライドを見る様子がみられた。ホームには一人部屋があることや、世話人さんが美味しいごはんを作ってくれることなど、「うらやましい」との声がある一方で、「病気になったらどうするのか」「夜が心細い」など、不安に思う言葉もきかれた。また、ホームで暮らしたいと思うが、きょうだい(家族)が反対しているなど、現実を目を向けた発言もあった。

### 見学（ホーム、生活介護事業所）

ピアサポーターが生活しているホームと、日中利用している生活介護事業所の見学を行った。施設職員が送迎に協力してくれて、移動もスムーズに行えた。

2回目のホームの見学では、ピアサポーターは、ホームの毎日の生活で気に入っていることなど、実際に生活している人の視点で案内してくれて、施設利用者も興味を持った様子だった。ホームは、鳥のさえずりが聞こえるほどにとっても静かで、参加者も「すごく静か」と口々に話し、実際に見学してみて初めて入所施設との違いを実感したようだった。ホームの個室に、好きな雑誌の付録の人形をととてもたくさん並べている人もおり、「ホームは一人部屋だから怒られないんやなあ」と話す人もいた。また、歩行が不自由で玄関で躊躇する人もいたが、「手すりがあったらいけると思う」など話し、具体的に「自分が生活するとしたら・・・」ということをイメージする様子もあった。また、「こんなところに住みたいなあ」と自分の生活としてホームを考えるような様子もみられた。

3回目の日中活動の場である生活介護事業所の見学では、この施設から徒歩10分ほどの近さだが、実際に見るのは初めてとのことだった。生活介護事業所の利用者は、この施設からホームに移行した方がほとんどで、懐かしい人と久しぶりに対面して喜び合う様子がみられた。ピアサポーターから事業所内を案内してもらい、その後、和紙で作った封筒に絵を描いたりシールを貼ったりして、オリジナル封筒を作る活動を、説明してもらいながら一緒に体験した。建物を見るだけではなく、活動を一緒に体験することで事業所の楽しい雰囲気を楽しむことができ、「またここに来たい」と話す人もいた。

### 参加者の感想とまとめ（思ったことを自由に話す）

最終回に、見学してみた感想をきくと「よかった」「また行きたい」など、今回の取組みがよいきっかけとなり、今後につながっていきそうな感じをうけた。また、「夜一人で寝るのが心配」など、具体的に生活をイメージして不安な気持ちを話す人もおり、ピアサポーターから「わたしも最初は不安でした」と同じような気持ちだったことを話していた。

そして、実際にホームで暮らしてみたいですか？と問いかけると、ホームに暮らしたいが、きょうだいなどの家族が反対しているという話がでてきた。これまでに「ホームで暮らしたい」と話して反対されたことのある人もいれば、聞いたことはなくても「このままこの施設にいてほしいと思っていると思う」と家族の思いを敏感に感じている人もいた。ピアサポーターの2人は、ホームへ

移行したときに特に家族の反対はなかったが、ホームに引っ越す前に、家族にホームの建物をみてもらったり世話人に会ってもらったりして、安心したのではないかと経験を話した。家族が反対しているのはなぜだと思いますか？と問いかけると「私が何もできないと思っている」「ホームのことをよく知らないと思う」という言葉があり、家族にもホームを見学する機会があればよいのに、と話す人もいた。ピアサポーターも「家族の意見もきかないとだめなんやなあ」と新たな課題を感じたようだった。

## <まとめと今後の課題>

### 今回の取り組みでよかったこと

- ・ 写真を多く用いたスライドを活用した説明で、興味を持って説明をきいてもらうことができ、地域の生活をもっと知りたい(見学に参加したい)という目的意識をもつことができた。
- ・ 1回目の説明があったため、見学が単なる「外出の機会」ではなく、「地域生活を知る」という目的を持って参加することができた。
- ・ 見学をすることにより、実際に地域で生活するイメージをもつことができた。
- ・ 「自分の生活」という視点を持ち、入所施設での生活もふまえながら今後の自分の生活について考えるきっかけとなった。
- ・ ピアサポーターや、入所施設の仲間と一緒に参加することにより、周りの人と一緒に気持ちを共有しながら、自分の思いを確認することができた。
- ・ 家族の理解など、希望する地域生活を実現するためにどんなことが必要であるかを、施設利用者自身も考える機会とすることができた。
- ・ 施設職員にとっても、施設でのいやなことや、地域移行についての思いを施設利用者が予想以上に具体的に考えていることや、家族の思いを非常に敏感に感じ取っていることに気づくよい機会となった。

### 今後の課題

- ・ 見学の人数の都合などから、限られた人数の参加者となった。今回のような取り組みをさらに多くの方が参加できるように回数を重ねるなど、広める必要がある。
- ・ 今回参加した施設利用者の中には、実際にホームへの移行を希望し、家族への説明や体験利用など、移行のための支援を必要としている人もいる。今回の取り組みをきっかけに、次は個別に取組みを深めていく必要のあるケースもあると考えられ、そのための支援策を検討していく必要がある。
- ・ 今回の取組みで、特に家族の反対によって、地域移行がすすまないケースが多くあることが実感された。家族に対しても、地域生活について知ってもらう取組みが今後必要であると考えられる。

## モデル施設へのピアサポーター派遣について

身体障がい者入所施設派遣事業所 担当者

今回の事業は、昨年度に出た「大阪府地域移行推進指針」にも見られるように、地域移行の意思形成・意向確認の部分で、地域で生活している障がい者が体験をもとに相談を行うことが有効であり、ピアカウンセラーを活用した入所者への働きかけと派遣の取り組みが今後の課題とされた部分を、実践・検証するために行った。

身体障がい者については、身体障がい者入所施設（療護施設）3施設にそれぞれ5回（内1施設については3回）の派遣を行った。1回あたりの実施時間は約2時間。なお今回は「ピアカウンセラー」に限定せず、地域移行の実体験をもった者などにまで枠を広げる意味あいもあり、「ピアサポーター」として障がい当事者が施設におもむくこととした。

実際の派遣は、概ねどの施設も、1～2回目にビデオ・スライドなどを利用した地域生活の紹介、および実際に地域生活をしている障がい当事者からの説明、3～4回目に実際に地域生活の様子をみるための見学会、最後に見学を含め、まとめの意見交換、という流れで行った。

地域生活の紹介については、自らの体験を話すことによって、関心・興味を引くことができた。またビデオなどの映像や画像を使うことにより、さらに分かりやすく説得力のあるものになった。しかし体験談や映像等によるアプローチは、入所者にとって「受け身」的な素材でもあり、実際に自分のこととしてイメージをする場合、それではまだ弱い面もあったように見受けられる。

見学会については、今回の目的に即して言うと、非常に大きな効果をあげたと言える。

実際に施設から出て、障がい当事者の集まる日中活動の場を見ること、生活している住宅を見ること、何よりもその場の空気・雰囲気に触れることで、自分のこととしてイメージできる部分が大きくなった。施設の空気の中で行うのではなく、実際に地域を感じる効果だと思われる。結果、見学会によって施設入所者から出される感想は、施設で行った体験談・映像の時よりも、生々しいものとなる。それは「やってみたい」という肯定的なものから、「自分の障がいでは難しい」などのネガティブなものもあるが、いずれにせよ、自分の希望・期待や不安・懸念が大きくなって、自らの言葉で語り始めたということであると思われる。

今回の事業で確認できたこととして、

- ・ピアサポーターによる入所者への働きかけは、地域移行の動機付けの際に非常に効果的であった。
- ・実際に入所者が地域生活の様子を見学することで、イメージがふくらみ、また課題についても具体的に意識できる（地域への見学では、送迎体制等で希望者を制限せざるを得なく、事業終了後に見学を実施した施設もあった）。

1点目であるが、もし地域移行の説明が、経験者でもない健常者の職員等からの一般的な話に終始した場合、より他人事としての情報でしかなかったであろう。ピアサポーターの体験をもとにした説明であるからこそ、入所者にも伝わるものがあったと考えられる。

2点目は当初から一定予想されたことではあったが、予想以上に大きな効果があった。地域移行に

ついて、積極的・消極的いずれの意見も、それだけ自分の中にある意識をゆさぶったということである。

本事業を通して施設と地域（団体）との恒常的なつながりを持っていく契機となった。また、地域移行を支援する施設職員の認識がより深まったのではないと思われる。

今回はここまでの取り組みであったが、見学会での意見・感想について、フォローする場が必要であったと感じる。自分には難しいという意見の中には、医療的ケアの問題や、住宅の構造の問題なども見受けられたが、本来地域の生活は、そのような環境を調整して行っていくものである。決して環境に自分を合わせて生活をするのではない。

その辺りをピアの立場で相談し（ここでもまたピアの威力が発揮される場所である）、不安を一つずつ取り除いていく必要がある。今回の見学は日中活動・住宅と、ともに1カ所だけになっているので、複数の場の見学をすることや、また、入所施設の生活は自分を環境に合わせる部分も大きいと考えられ、そうではなく、自分に合わせた環境を、創っていくという方向に意識を向けていくことを、伝えていく必要がある。

今回の5回という中で課題として、細かなことをあげれば、ピアサポーターによる体験談の伝え方、映像・画像の使い方を更に研究していくこと、また素材となる映像等について充実させていくこと。また今回は短期間の実施であったため、調整が非常に難しく結果的に3回の派遣となった施設については、5回のイメージのプログラムのまま進めたために、十分に伝えきることができなかったことなどから、実施期間と回数・内容の更なる研究も必要と思われる。

さらに、大きな課題としては、今回の結果を活かし次に何を作っていくかということである。基本的にこの取り組みを充実させていくこと、また次のステップとして、施設・地域の支援センター・自治体が連携して、地域移行が進んでいくような枠組みやパターンを作っていくことなどがあげられる。

障害者権利条約の批准が間近であると言われている。第19条には「すべての障害者が他の者と平等の選択の機会をもって地域生活で生活する平等の権利を認めるもの」とある。施設入所者に、平等の選択の機会がある、ということは、単なる情報提供で終わるものではない。今回、入所者の中から「本当は地域で生活したいのだが・・・」という思いがいくつか出たが、それを実現させていく仕組みが必要である。この試行事業が、障がい者の権利を護っていくための、大きなきっかけになることを期待している。

1 - ( 5 ) モデル施設へのピアサポーター派遣試行と検証  
～受け入れ施設からの報告～

## (5) 受け入れ施設からの報告

### ピアサポーター派遣モデル事業を終えて～受け入れ施設から～

身体障がい者療護施設 相談支援専門員

今回「地域生活移行支援ピアカウンセリング検討委員会」の一員として、この事業の受け入れ施設側で参加させて頂き、当園の方々と一緒に「施設入所者の地域移行」という問題を正面から考える機会に恵まれた。

「ピアサポーター」を派遣して頂き、4回（今回の事業以外に、別途今回事業同様の地域移行研修を受けた）に亘っての勉強会や、「ピアサポーター」が関係する事業所等のご協力でグループホーム見学会を実施した。

当園入所者の中から、この研修会に10名（延べ19名）の方々が参加され1、2回目のピアサポーターによる体験談では、「聞いてみよう！見てみよう！たずねて見よう！」と入所者達の前向きな姿勢を当初から感じて、「今までの研修と違うな！！」と話し合い、講演形式とはかなり違いがある事に気づいた。それは、同じ障がい者の目線で具体的に「地域で暮らす」メリット（良いところ）だけではなく、デメリット（困難なところ）を重点的に聞きたいとひとり一人の、「地域で暮らす」イメージがある程度できて来た事である。

3回目のグループホームへ出向いた見学会では、5人の参加者から更にかなり具体的な意見も出された。以下はその時の意見を集約したものである。（3ヶ所共通）

1. アットホームな雰囲気個室である事が最大の魅力だが、全て自己責任で一からのスタートなので人脈のない者にとっては困難なように感じた。
2. 個人の意思は充分反映できるものの、「生活保護」を受給しない限り経済的な負担が大幅に増える可能性があるように思った。（家賃、食費、ヘルパー利用料、医療費等）
3. 障がい者として必要不可欠な介護（支援）体制の不安感は否めない。
4. 各ホームを訪問した結果、ホーム毎の介護体制にバラつきが見られた
  - (ア) 建物内の単独移動に危険な箇所あり。（EV横の階段等）
  - (イ) 廊下が全体的に狭く、電動車椅子では動きにくい。
  - (ウ) キッチン、風呂等の居住スペースが狭く、自分でする調理や機械浴が困難。
  - (エ) グループホームを立てる場合に「バリアフリー」の視点がないと、入居者が不便に思う部分が多くなる。
  - (オ) 最重度の身体障がい者が自立するには、ハード面の充実も必要だと思う。

さらに、今回の取り組み全体を通して以下の意見があった。

- ①「本来の地域生活（自立）とはどういう事か」をかなり前向きに考えることができた。

基本的には、みんな地域（自立）生活をして暮らしたい。今後もこの様な取り組みを継続してほしい。（新しい地域の情報をほしい）

全ての障がい者の地域移行を達成するには、法的な整備を行政にお願いしたい。

1 - ( 6 ) モデル施設へのピアサポーター派遣試行と検証  
～知的障がい者入所施設A ピアサポーターとの打ち合わせ資料～

(6) 知的障がい者入所施設 A ピアサポーターと支援者との打ち合わせ資料

ホームのくらしを、施設しせつの人ひとにつたえよう！

う あ  
打ち合わせ

- 1月15日 (木) 10:00～ 施設と日中活動にっちゅうかつどうの場所ばしょで
- 1月29日 (木) 日中活動にっちゅうかつどうの場所ばしょで (支援者しえんしゃがうかがいます)

かいめ がつ にち  
1回目 1月29日 (木) 1:00～2:30

- 施設しせつのくらしをふりかえろう (楽しかったこと ちよっといやだったこと)  
参加者さんかしゃみんなで話はなしてみよう
- グループホームのくらしを紹しょうかい介しよう (スライドなんかを使つかって)

さんかしゃ  
参加者へアンケート

かいめ がつ にち  
2回目 2月12日 (火) 1:00～2:30

- グループホームを見学けんがくしよう (みんなでおじゃまします)
- ホームのくらしについて、質しつもん問にもこたえてね

さんかしゃ  
参加者へアンケート

かいめ がつ にち  
3回目 2月26日 (木) 1:00～2:30

- 日中活動にっちゅうかつどうの場所ばしょを見学けんがくしよう
- 日中活動にっちゅうかつどうの場所ばしょやホームのくらしについて知しりたいこと (質しつもん問こたえてね)

かいめ がつ にち  
4回目 3月2日 (月) 1:00～2:30

- わたしの今いまの気持きもちはどうかな？  
☆やってみたいこと<ホームでくらししてみたい？>  
☆ちよっと心配しんぱいなこと<わたしもホームでくらせるかな？>
- ☆〇〇さん、△△さんは、ホームで生活せいかつをはじめるとき、どうでしたか？

さんかしゃ  
参加者へアンケート



1 - ( 7 ) モデル施設へのピアサポーター派遣試行と検証  
～知的障がい者入所施設A 参加者への配布資料～

(7) 知的障がい者入所施設 A 参加者への配布資料 (日程表)

ちいき せいかつ かんが  
地域での生活について、いっしょに考えてみませんか!

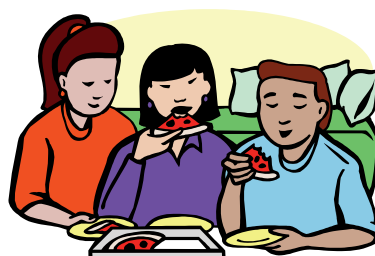
どこで す 住むか・・・ だれと す 住むか・・・

にっちゅう なに 何を するか・・・ てつだ ひつよう どのような手伝いが必要か・・・。



じっさい せいかつ みな ぴあさぽーたー はなし き  
実際に、ホームで生活している皆さん (ピアサポーターさん) の話を聞いたり、

す ばしょ けんがく  
住んでいる場所などを見学してみませんか。



かいめ 1 回目 1 月 29 日 (木) 1 : 0 0 ~ 2 : 3 0

ちいき せいかつ なん  
地域での生活って何だろう?

えん せいかつ かんが ぴあさぽーたー はなし き  
園での生活を考えたり、ピアサポーターさんの話を聞いたりしてみましょう。

かいめ 2 回目 2 月 12 日 (火) 1 : 0 0 ~ 2 : 3 0

ぴあさぽーたー せいかつ けんがく  
ピアサポーターさんが、生活しているホームを見学してみましょう。

わからないことを、いろいろ聞いてみましょう。

かいめ 3 回目 2 月 26 日 (木) 1 : 0 0 ~ 2 : 3 0

ぴあさぽーたー かよ  
ピアサポーターさんが、通っているところを

けんがく  
見学してみましょう。



かいめ 4 回目 3 月 2 日 (火) 1 : 0 0 ~ 2 : 3 0

おも かん はな  
思ったことや感じたことを、いっしょに話してみましょう。

1 - ( 8 ) モデル施設へのピアサポーター派遣試行と検証  
～知的障がい者入所施設 B 1 回目配布資料～

2009 年 1 月 23 日 ( 金 )

ちいきせいかつ  
地域生活について

- 1 . ちいきいこうしえん  
地域移行支援センターについて ( 支援者から )
  
- 2 . にゅうしょしせつ はなし けっこん はなし  
入所施設の話、結婚の話 ( ピアサポーターから )
  
- 3 . グループホームでのせいかつ  
生活について ( ピアサポーターから )
  
- 4 . やっとしあわせがきた！ ~ 今の生活のこと、入所施設のこと ~  
( ピアサポーターから )

連絡先

住 所  
電 話

地域で暮らしたい、と思ったら。



いよいよ、東大阪市での生活が  
スタートします！



入所施設をでたい  
自立したい



地域で暮らしている、同じ障害を持つ  
ピアカウンセラーが相談にのります。



住むところは？  
ごん金は？ お金は？  
できないことはどうしたらいいの？  
好きなことはできる？



ケアプランをたてます。

自分の意見を言おう！  
もっとあとそびたい。  
もっと手伝ってほしい。  
買い物は一人で行ける

ケアプランをみなおします。



やってみよう！自立生活



ヘルパーと出かけたり



料理をしたり



グループホームの見学に行ったり



1 - ( 9 ) モデル施設へのピアサポーター派遣試行と検証  
～身体障がい者入所施設 E 5 回目配布資料～

## ピアサポート・ワークショップ

2009年3月13日(金) 14:00~16:00

### 目 的

通算5回にわたってのピアサポート事業に参加した当事者の皆さんの緊張をほぐし、自己信頼を高めつつ、遊び心を楽しみながら自己発見(アンケート)をしてもらいます。

### 内 容

#### 第1部=元気の出るワークショップ 14:00~

- リレーション 二重の円陣を組む(外円=サポーター、内円=当事者)
- (イ) ハイタッチでよろしく(右回りと左回り)
- (ロ) 自己紹介(本名・名札の動物名)

◇人間誰でも生まれながらにして人と仲良くするためにこの世にある。  
「あなたがいてくれて有難う」「あなたと出会ってうれしいよ」

#### 第2部=遊び心で自己発見(アンケート) 14:15~

##### 別紙 第2部=質問事項参照

※時間見てするしない決める

◇人間はあらゆる可能性を持ってこの世にある  
(私はやれる・私はできる・私はやる)

◇コミットメント

(私が今、一番したいこと) 全員で「かんたん!カンタン!」

※最後の質問○△×出お答え下さい

今回の催しに参加して 良かった○ まあまあ△ 良くなかった×  
ためになった○ 課題多し△ もっと工夫を×

#### 第3部(支援センターの広報活動) 15:00~

#### 第4部(大阪府アンケート) 15:30~

#### 終了 16:00~



## 別紙 第2部＝質問事項

全員にお聞きします。これだと思う答えに○の札を上げてお答え下さい

◇ピアサポート事業の催しは、きょうで5回目です。さて、あなたは、何回参加なさいましたか？

- ①きょうがはじめて②きょうで2回目③きょうで3回目④きょうで4回目⑤5回全部

◇問題を一度読みます。これだと思う、番号札を指示に従ってお上げ下さい

ピアサポート事業に何故！？参加してみたいと思いましたが？

- ①自立したいと思っていたから  
②自立できるヒントがあるかも知れないと思ったから  
③みんなが参加するからなんとなく  
④参加しないと悪いような気がしたから

◇あなたは、どのタイプ！？3つの中からお答え下さい。

- ①自立はまだ考えていないが、外に出たい・外出はしたいと思っている  
②自立したいと思っはいるが、色々と不安があつて踏み出せない  
③今すぐ！自立したい

◇あなたはどのタイプですか？まず、①の札を上げた方にお聞きします。②③の札グループは①のグループの皆さんの気持ちを聞いてみましょう。それでは①の札グループの皆さんにお聞きします。

A、「外に出たい・外出はしたいと思っているのですが、外とに出て・外出して何が一番してみたいですか？ご自分の言葉でお答え下さい」（複数の回答でも結構です）

例＝わが街ぶらぶら歩き・映画鑑賞・スポーツ観戦・神社仏閣めぐりなど

B、「将来的に、自立をどのように考えていますか？」

- ①自立は全く考えていない  
②自立できる方法があれば考えたい  
③支援してくれる人（団体）がいれば（あれば）考えたい

C、「自立は考えていない、理由は何でしょうか？」次の3つの中からお答え下さい。

- ①家族や親類縁者に心配かけたくない（お金の迷惑も含めて）  
②「自立・自立」と言われも想像がつかない、ぴんとこない  
③自分自身に、自立できるだけの力はないと思っている（何も知らないから）

※「自立はしたいが、色々不安があつて踏み出せない」、先ほど②とお答えした方にお尋ねします。①と③の方は②の方の気持ちを聞いてあげて下さい。では、②の方にお尋ねします。

D、色々な不安を具体的にお答え下さい（復習回答も可能です）

- ①お金が心配  
②介護に不安がある  
③健康管理や緊急事態のことを考えると不安がある  
④家族などの強い反対  
⑤自分には自立をする力があるのかどうか不安

E、ひとりひとりの力に合わせて自立出来るプログラムがあることを知っていますか？

- ①全く知らない
- ②あると聞いたことはあるが、詳しくは知らない
- ③知っている

F、全員の皆さんにお聞きします「ひとりひとりの力に合わせて自立できるプログラム」があることを知った、今、このプログラムについてお聞きします。

- そのプログラムに参加したい
- ②そのプログラムに興味を持った
- ③そのプログラムについて詳しく知りたくなった

I L Pの説明&この後に出てくる「グループホーム」「福祉ホーム」の説明

( I L P & グループホーム・福祉ホームの説明は Flat きた・あいえるにお願いする)

※「今、すぐ！自立したい」と③の番号札を上げた方にお聞きします。①と②を上げた方はお休みです。③の方の気持ちを聞いてみましょう。

G、3つの質問から、今のご自分の気持ちに1番近いのはどれですか？番号札でどうぞ

- ①支援する人（団体）を紹介して欲しい
- ②いきなりひとり暮らしではなく G Hor 福祉ホームを紹介して欲しい
- ③きっちり制度の学習もしておきたい

1 - (10) モデル施設へのピアサポーター派遣試行と検証  
～入所施設利用者へのアンケート用紙～

(10) 入所施設利用者へのアンケート用紙

(初 回)

回 答	本人が記入
	本人からの聞き取りで施設（事業所）支援者が記入

かい どう き にゅう ねん がつ にち      へいせい ねん がつ にち  
回 答 記 入 年 月 日      平成 年 月 日

しせつ しぎょうしょ めい 施設（事業所）名	しんたい ちてき 身体・知的
---------------------------	-------------------

\* この調査は、あなたの地域移行に関する気持ちを知るための調査であり、  
その他の目的には使用しません。

あなたの意見を お聞かせください

(あなたは、これからどのような暮らしをしたいとおもっていますか?)

あなたは、グループホームやケアホームで生活している人の話を聞いてどう思いましたか。

あてはまるものに、いくつでもをつけてください。

かんしん も  
関心を持った

おもしろそう・楽しそうだった

むずか たいへん  
難しそう・大変そうだった

わからない

その他(具体的に記入してください)

(

)

あなたは、これからどこで生活したいとおもっていますか。どれか一つにをつけてください。

このまま今の施設で生活したい。

今の施設とは違うところで生活したい。

どちらでもよい。決められない、わからない。

その他(上のどれにもあてはまらない)

今の施設での生活について、あなたが思っていることに、いくつでもをつけてください。

施設での生活が楽しい

施設で暮らしていると日常生活(食事、日中の活動、遊びなど)に困らない

施設では困ったことがあっても、すぐに相談のってくれる人がいる

施設では、いろいろな規則(きまり)が多い

施設では、プライバシーがまもられない

施設では自分のしたいことを自由にできない

わからない

その他（具体的に記入してください）

（

）

施設を出て生活することについて、あなたが感じたり、思ったりすることはどのようなことですか。あてはまるものに、いくつでもをつけてください。

施設を出て生活しても、困ることはない

施設を出て生活するのは、楽しそう

施設を出ても、支えてくれる人がいるので安心です

自信はないが、施設をでてでも何とか生活していけると思う

施設を出ると、相談する人がいなくなるので困りそう

施設を出ると、昼間かようところ（日中活動の場、仕事）がみつかるか心配です

家族が心配するので、施設を出たくない

施設を出て生活する自信がない

施設を出ると自分のお金で生活できるか心配です

施設をでると調理、掃除や洗濯など（家事援助）で困る

施設を出ると食事、入浴や排泄など（身体介護）で困る

現在の病気（障がい）を定期的に診てくれる病院が地域にあるか心配です

わからない

その他（具体的に記入してください）

（

）

あなたが、施設以外のところで生活するとしたら、どのようなところで生活したいですか。

あてはまるものに、一つだけをつけてください。

グループホームやケアホームで生活したい

自分の家に帰って生活したい

住むところを借りて生活したい

今いる施設とは違う別の入所施設で生活したい

今いる施設以外で生活することは考えられない

わからない

その他（具体的に記入してください）

（

）

あなたが、今の生活について思っていることを、なんでも自由に書いてください。

質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

(見学時)

回 答	本人が記入
	本人からの聞き取りで施設(事業所)支援者が記入

かい とう き にゅう ねん がつ にち 回 答 記 入 年 月 日	へいせい ねん がつ にち 平成 年 月 日
---------------------------------------	---------------------------

しせつ じぎょうしょ めい 施設(事業所)名	しんたい ちてき 身体・知的
---------------------------	-------------------

けんがくさき 見学先	*この調査は、あなたの地域移行に関する気持ちを知るための調査であり、その他の目的には使用しません。
---------------	---

あなたの意見を お聞かせください

(あなたは、これからどのような暮らしをしたいとおもっていますか?)

あなたは、グループホームやケアホーム、または( )を見学して どうおもいましたか。あてはまるものに、いくつでも をつけてください。
--

かんしん も  
関心を持った

おもしろそう・楽しそうだった

むずか たいへん  
難 そう・大変そうだった

わからない

た ぐたいてき きにゅう  
その他(具体的に記入してください)

( )

あなたは、これからどこで生活したいとおもっていますか。 どれか一つに をつけてください。
---

いま しせつ せいかつ  
このまま今の施設で生活したい。

いま しせつ ちが せいかつ  
今の施設とは違うところで生活したい。

どちらでもよい。決められない。わからない。

た うえ  
その他(上のどれにもあてはまらない)

た けんがく その他、あなたがグループホームやケアホーム、または( )を見学して かん じゅう か 感じたことを、なんでも自由に書いてください。
---

しつもん お きょうりょく  
質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

(最終回)

回 答	本人が記入
	本人からの聞き取りで施設（事業所）支援者が記入

かいとう 回 答 記 入	にゅうねん 年 月 日	がつか が 月 日	へいせい 平成	ねん 年	がつか が 月 日
-----------------	----------------	--------------	------------	---------	--------------

しせつ 施設（事業所）名	じぎょうしょ 事業所	めい 名	しんたい 身体・知的	ちてき 知的
-----------------	---------------	---------	---------------	-----------

\* この調査は、あなたの地域移行に関する気持ちを知るための調査であり、  
その他の目的には使用しません。

あなたの意見を お聞かせください

(あなたは、これからどのような暮らしをしたいとおもっていますか？)

あなたは、グループホームやケアホームで生活している人の話を聞いたり、  
実際にグループホームやケアホームなどを見学して、どう思いましたか。  
あてはまるものに、いくつでもをつけてください。

関心を持った

おもしろそう・楽しそうだった

難しそう・大変そうだった

わからない

その他（具体的に記入してください）

(

)

施設を出て生活することについて、あなたが感じたり、思ったりすることはどのような  
ことですか。あてはまるものに、いくつでもをつけてください。

施設を出て生活しても、困ることはない

施設を出て生活するのは、楽しそう

施設を出ても、支えてくれる人がいるので安心です

自信はないが、施設をでてでも何とか生活していけると思う

施設を出ると、相談する人がいなくなるので困りそう

施設を出ると、昼間かようところ（日中活動の場、仕事）がみつかるか心配です

家族が心配するので、施設を出たくない

施設を出て生活する自信がない

施設を出ると自分のお金で生活できるか心配です

施設をでると調理、掃除や洗濯など（家事援助）で困る

施設を出ると食事、入浴や排泄など(身体介護)で困る  
現在の病気(障がい)を定期的に診てくれる病院が地域にあるか心配です  
わからない

その他(具体的に記入してください)  
( )

あなたは、これからどこで生活したいと思っていますか。どれか一つにをつけてください。

このまま今の施設で生活したい。  
今の施設とは違うところで生活したい。  
どちらでもよい。決められない、わからない。  
その他(上のどれにもあてはまらない)

あなたが、施設以外のところで生活するとしたら、どのようなところで生活したいですか。  
あてはまるものに、一つだけをつけてください。

グループホームやケアホームで生活したい  
自分の家に帰って生活したい  
住むところを借りて生活したい  
今いる施設とは違う別の入所施設で生活したい  
今いる施設以外で生活することは考えられない  
わからない  
その他(具体的に記入してください)  
( )

あなたが、これからの生活について思っていることを、なんでも自由に書いてください。

質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。



## 2 地域生活移行啓発ビデオの制作

## 2 地域生活移行啓発ビデオ制作

### (1) 成果品

形体（画像） DVD仕様

タイトル はじめてみませんか 地域の暮らし ～ひとりじゃないよ～

作成本数 600本

# はじめてみませんか！

ちいき  
**地域の暮らし**  
～ひとりじゃないよ～



イラスト 武井陽子

カラー 22分45秒  
企画・制作 大阪府  
制作 (株)放送映画制作所

はじめませんか！  
地域の暮らし

このDVDは、  
大阪府障がい者計画基本理念「人が人間（ひと）として  
普通にくらせる自立支援社会づくり」に基づき、  
障がいのある人が、  
地域とつながりをもちながら  
地域でゆたかに暮らしていく  
そんな地域生活移行をイメージしていただくために  
制作したものです。

多くの方にご覧いただき、  
地域の理解と支援が広がっていくことを  
願っています。  
ぜひ手にとってご覧ください。



平成20年度厚生労働省障害者保健福祉推進事業の補助を受けて制作しました。

**取り扱い上のご注意**  
ディスクは両面とも、キズ、汚れ等をつけないようにお取り扱いください。またディスク記録面にはさわらないでください。汚れたときやほこり等は、柔らかい乾いた布で軽く拭き取ってください。水、ベンジン、シンナー、LPクリーナーは使用しないでください。  
使用後は、必ずプレーヤーから取り出し、DVD専用ケースに収めて、直接日光のあたる場所、高温多湿の場所は避けて保管してください。  
ディスクケースの上に重いものをのせたり、落としたりすると、ケースが破損しケガをすることがあります。

**おことわり**  
この製品を権利者に無断で、複製、改変、公衆送信（放送、有線放送、インターネットなど）、公開上映、上演、頒布（販売、貸与など）、翻訳、翻案等に使用することは法律で禁止されています。

平成21年3月制作

## (2) シナリオ

## DVD 「はじめてみませんか！地域の暮らし ~ひとりじゃないよ~」 シナリオ

テロップ	時間	内容
グループホームでくらす 彩さん（仮名）	00:00	<NA> はつらつとした笑顔の彩さん。 彩さんは、「地域で生活したい」という気持ちと、 <u>たくさんの人たちの応援で</u> 今、 <u>グループホームでくらしています。</u>  不安でいっぱいだった彩さんが、どのようにして 地域でくらしはじめたかをごらんください。
・タイトル	00:25	はじめてみませんか！地域の暮らし  ~ひとりじゃないよ~
	00:31	<NA> <u>ここは 入所施設です。</u> この施設からも、たくさんの人達が、グループホームや 一人暮らしなど地域で生活をはじめています。
地域生活体験ホーム	00:56	<NA> ここでは、入所施設で生活する人が、地域と同じような生活を 体験できます。 <u>3ヵ月から6ヵ月の間、体験します。</u> 今、体験している方にお話を聞いてみました。
生活体験をしている人	01:13	<体験者> Q この生活はどうか <u>「楽しい」</u> Q どこが楽しい？ <u>「これから グループホームに でたりするから」</u> Q これからグループホームにでたいなと思って？ <u>「はい そうです」</u>
利用者説明会 「地域生活への移行について」	01:31	<NA> この施設では、グループホームや地域の生活について 説明会がひらかれます。 <u>今日は地域で暮らしている人から</u> <u>話を聞く会がひらかれています。</u>
	01:46	<司会者> <u>「施設から 出て 地域でくらしたい</u> <u>すごく 不安がある との声がきかれます</u> <u>きょうは みなさんが 地域でくらししていくときに</u> <u>いっしょになって 応援してくれるいろんな方々から</u> <u>いろいろなお話を ききたいと 思います」</u>
相談支援専門員	02:07	<相談支援専門員> <u>「地域生活の様子を みなさんに 少しでも</u> <u>紹介させてもらいたい と思っています」</u>
ピアサポーター なかまの人が 地域の生活のようすを つたえます	02:16	<NA> <u>この人は、ピアサポーターです。</u> <u>地域で生活している人が今の生活のことや、</u> <u>グループホームで暮らそうと決めた時の</u> <u>気持ちを伝えてくれています。</u>

	02:49	<p>みんなは、話を聞いて地域生活のイメージをふくらませたり、わからないことを質問したりできます。</p> <p>&lt;NA&gt;</p> <p>この施設で生活している彩さんも、会に参加しています。彩さんは、地域で生活することはできないだろうかと、なんとなく思っています。ピアサポーターの話を真剣に聞いています。</p>
ピアサポーター	03:12	<p>&lt;ピアサポーター&gt;</p> <p>Q いまは何人で生活している？</p> <p><u>「2人です」</u></p>
	03:24	<p>Q <u>どんな人と住んでいる？</u></p> <p><u>「にぎやかな人です」</u></p>
	03:33	<p>Q <u>グループホームで何か約束事は？</u></p> <p><u>「あります」「遅くなるときは連絡する」</u></p> <p><u>「用事があってご飯がいらなときは世話人さんに連絡する」</u></p>
ピアサポーターからのメッセージ	04:06	<p><u>「外泊するときは、前もって連絡する」</u></p> <p>Q <u>グループホームでよかったことは？</u></p> <p><u>「今までできなかったことができたり、すきなときに</u></p> <p><u>出かけることができるようになったり、</u></p>
	04:35	<p><u>あと、オシャレができるようになりました」</u></p> <p><u>いっしょにくらしている人、「いないとさびしいです」</u></p> <p><u>「妹のように思えるようになっていっています」</u></p> <p><u>「いちど遊びに来てください」</u></p>
	04:54	<p>&lt;NA&gt;</p> <p>話を聞いた彩さん。</p> <p><u>「自分もしてみたい。」という気持ちがわいてきました。</u></p> <p><u>「地域で、生活したい。」と思うようになった彩さん。</u></p> <p>でも、<u>どうしたらいいのかわかりません。</u></p>
施設職員	05:10	<p>&lt;NA&gt;</p> <p>地域で生活したいと思うけれども、本当にできるかなと不安でいっぱい彩さん。そんな気持ちを、思い切って施設の職員にうちあげました。</p>
わたしの個別支援計画・個別支援会議	05:30	<p>&lt;NA&gt;</p> <p>施設の職員は、彩さんの地域で暮らしたいという気持ちと、不安だという気持ちをわかってくれました、それで、彩さんがこれからの生活を具体的にイメージできるように、冊子『わたしの個別支援計画・個別支援会議』をつかってみることにしました。</p>
地域移行イメージ図	05:55	<p>&lt;NA&gt;</p> <p>この冊子は、</p> <p><u>どこに住むのか… 誰と住むのか…</u></p> <p><u>昼間は何をするのか… どのような手伝いが必要なのか…</u></p> <p><u>何をして楽しむのか…、など</u></p>
練習シート		<p><u>これからの生活について、自分で考えたり、</u></p>
個別支援計画表	06:19	<p><u>思いを育てたりするためのワークブックです。</u></p> <p>&lt;NA&gt;</p> <p><u>地域で生活したいという希望を、</u></p> <p><u>どのように実現していくのか話し合い、</u></p> <p><u>「個別支援計画」に書いていきます。</u></p>

<p><b>相談支援専門員</b>  困ったことがあるときや、サービスを利用したい時に、話をききいっしょに考えます</p>	06:30	<p>&lt;NA&gt;  生活のイメージもできて、グループホームで暮らしたい気持ちが強くなった彩さん。そこで、<u>施設職員と一緒に地域移行支援センターに行き、相談することにしました。</u>  硬くなっていた彩さんですが、<u>相談員が、丁寧に話を聞いてくれるので、少しずつ緊張がほぐれてきました。</u></p>
	06:58	<p>&lt;本人&gt;  「<u>どんな人が 住んでるのかなって ちょっと思ったり してます</u>」  &lt;相談支援専門員&gt;  「<u>やっぱり ルームメイトが 気になりますか</u>」</p>
<p>相談支援専門員  宮崎さん</p>	07:10	<p>&lt;相談支援専門員&gt;  「<u>相談に 来られた方々の (地域生活への) いろんな不安を 取りのぞくことが大事</u>」</p>
<p><b>個別支援会議</b>  実際に計画をすすめていくための本人と支援者たちの話しあいです</p> <p>相談支援専門員  彩さん  施設職員  市職員</p>	07:22  07:38	<p>&lt;NA&gt;  地域で生活しようと決心した彩さん。この日は、彩さんの希望する地域生活を実現するために、「<u>個別支援会議</u>」が行われました。  &lt;NA&gt;  この会議では、<u>彩さんが、わからないことや 心配なことを伝え、市の担当者や支援センターの相談員と いっしょに話し合います。</u>  会議の最初に、<u>彩さんは「地域で暮らしたい」こと、一人ぐらしか、グループホームかで 迷っていることを伝えました。</u></p>
	08:00	<p>&lt;相談支援専門員&gt;  「<u>彩さんの ケア計画検討表を、会議で 参考にしたいと 思っています</u>」</p>
	08:12  08:21	<p>&lt;相談支援専門員&gt;  「<u>一人ぐらしの 希望についていろいろきいていること について お話いただけますか</u>」  &lt;施設職員&gt;  「<u>(一人ぐらしを) したいしたいという 希望があっても 簡単には いかないと いうことも 伝えている それでも 本人の気持ちを 一番大事にしたい 施設としては しっかりと 応援したいと 考えています</u>」</p>
	08:43  09:03	<p>&lt;市職員&gt;  「<u>市の担当として 彩さんの希望を かなえられるように 必要な情報を 提供したり 相談にもものついていきたいと 思っています</u>」  &lt;支援センター職員&gt;  「<u>何か ききたいことは?</u>」  &lt;彩さん&gt;  「<u>料理とかが できないのですが どうしたらいいでしょう</u>」</p>

	09:08	<p>&lt;市職員&gt;  <u>「グループホームでは、世話人さんがいます。食事などを作ってもらえるし教えてもらいながら自分で料理もできるひとりぐらしの時にこまった時は、ホームヘルパーサービスを利用することもできます。」</u></p>
	09:43	<p>&lt;相談支援専門員&gt;  <u>「昼間とか、どうですか何か気になることとか不安なこととかないですか」</u></p>
	09:48 10:00	<p>&lt;彩さん&gt;  <u>「昼間は一人でいてるのはちょっとさびしいからやっぱり毎日どっかに通いたいし仲間の人といっしょに活動もしたいと思っています」</u></p> <p>&lt;相談支援専門員&gt;  <u>「地域の作業所とか見学するのもいいかもしれませんね」</u></p> <p>&lt;彩さん&gt;  <u>いまのところどんな仕事があるかもわからないから将来的にははたらきたいと思うけど</u></p>
	10:17	<p>&lt;NA&gt;  <u>昼間通うところや、住むところについても話し合います。グループホームの見学や、一人暮らしをしている人の話を聞くこともできることがわかり、たくさんの人が、協力してくれることがわかりました。</u></p>
	10:40	<p>&lt;NA&gt;  <u>そこで彩さんは、グループホームを、見学する事にしました。</u></p> <p>その後、いろいろな体験をして、地域生活への思いを固めた彩さんは、<u>半年後、グループホームでの生活を</u>はじめました。</p>
グループホームでくらす彩さん	11:00	<p>&lt;彩さん&gt;  Q 地域生活をしたいと思ったきっかけは？  <u>「友だちを増やしたいというのがありました」</u>  <u>「施設は出会いが少ないと思うところもあって」</u>  <u>「門限とかも厳しいし、グループホームやったらある程度自由もきいて少人数で生活できると思った」</u></p>
	11:30	<p>Q 地域生活への不安は？  <u>「どんな風にまわりの人とかかわっていったらいいのか不安はあった」</u></p>
彩さんのグループホーム	11:40 11:45	<p>&lt;NA&gt;  彩さんは、ルームメイトと暮らしながら、<u>昼は作業所で働き、好きなペットといっしょに地域生活を</u>はじめました。</p>
	12:04	<p>&lt;彩さん&gt;  <u>「グループホームに来てすきな生き物もかえるし楽しい」</u></p>

彩さん	12:14	<p>&lt;本人&gt;  Q 料理はどうしている？  「料理は、世話人さんに 教えてもらって  片付けとかも 世話人さんに 手伝ってもら  できないところは やってもらって  いっしょに できるところは いっしょにしてもら」</p>
	12:37	<p>Q.困ったことがあった時は？  「自分らで解決できるところは解決して それでアカンかっ  たら 支援者のほうに話を持って行って  どうしたらいいかな ということを 相談するようにしてい  る」</p>
	12:54	<p>Q.地域生活で楽しいことは？  「働きにいけたり いろんな活動に 参加できたり  するところ」Q 例えばどんなところ？  「絵画教室とか」</p>
彩さんが描いた絵	13:10	<p>「絵には あまり興味は なかった。グループホームに  は行ってから はじめたんです 自分にも 絵がかけるんや  と」</p>
サークル活動	13:23	<p>&lt;NA&gt;  彩さんは、仲間たちとサークル活動をはじめました。  月に2度ほどのペースで行われるこのサークル。  最近、日々の出来事で  良かったことや、嫌だったことなどを話し合い、  身近に起こった困ったことも、みんなで相談しています。  イベントや忘年会などのお楽しみ会も、  みんなで話し合っ、ひらいています。</p>
彩さん	13:53	<p>Q これから地域生活を目指す人たちへ  「施設を出て 一人ぐらしをしようか グループホームに  しようか 迷っていても どちらにしろ  自分が やりたいことを選んで  最終的には 自分が 決めることやから どんなことでも  チャレンジとか 経験をしていってほしい」</p>
ガイドヘルプサービスを利用し ています。	14:22	<p>&lt;NA&gt;  ここで、地域で生活する時に利用できるところや、  サービスの一部を紹介します。  地域には、生活を支援する人がいます。</p>
	14:36	<p>&lt;NA&gt;  一人で外出や買い物ができないで困った時は、  ガイドヘルプサービスを利用してみましょう。</p>
就労移行・継続支援事業所	14:48	<p>&lt;NA&gt;  地域には、生活を支援するところがあります。</p>
相談支援事業所	15:27	<p>&lt;NA&gt;  就労移行支援事業所、就労継続支援事業所は、仲間と一緒に  働くところです。</p>
グループホーム	15:33	<p>&lt;NA&gt;  相談支援事業所には、相談員がいて  いっしょに考えます。</p>

		<p>&lt;NA&gt;  <u>グループホームは生活するところで、世話人がいます。</u></p>
	<p>15:48  16:02</p>	<p>&lt;NA&gt;  <u>ところ変わって、この町にも地域生活を支援するところがあります。</u>  &lt;NA&gt;  <u>そして、この町で生活をはじめた人たちが暮らしています。</u></p>
<p>グループホームでくらす  山田さん</p>	<p>16:14  16:28</p>	<p>&lt;NA&gt;  <u>普段から 仲良しで、生活を楽しんでいる3人を、紹介します。</u>  &lt;NA&gt;  <u>最初に紹介するのは山田さん。グループホームで暮らしはじめて8年のベテランです。仕事を終えてリラックス。ルームメイトと、楽しいひと時を過ごしています。そして、グループホームで暮らしはじめてから趣味のミニカー集めを楽しんでいます。</u></p>
	<p>16:57  17:07  17:16  17:20</p>	<p>&lt;山田さん&gt;  Q グループホームでの楽しみは？  <u>「ミニカーとか バイクとか 集めるのが趣味」</u>  <u>「自由に できるようになった」</u>  Q グループホームのいいところは？  <u>「やっぱりグループホームは 施設と違ってすきに 時間も使えるし 部屋もあるし すきなことができる」</u>  Q くらしを満喫している？  <u>「満喫してますね」</u>  Q グループホームにはいったときは？  <u>「最初は グループホームで共同生活するのが不安やったけど 段々慣れてきたら 大丈夫になった」</u></p>
<p>グループホームでくらす  野村さん</p>	<p>17:33</p>	<p>&lt;NA&gt;  <u>続いては山田さんの友人、野村さん。野村さんも、グループホームで生活しています。毎日、作業所まで自転車で通っています。作業所では、パン作りを担当しています。材料の量をはかって分けるなどの大事な仕事をまかされています。</u></p>
	<p>18:04</p>	<p>&lt;野村さん&gt;  Q 地域生活をはじめたきっかけは？  <u>「こういうグループホームが あるから一回体験実習をしてみないか といわれた」</u>  <u>「最初は ちょっと 慣れへんかったけど」</u>  <u>「でも 今は グループホームの方が いいと思ってる」</u></p>



	18:28	Q グループホームには行ってよかったことは？ 「 <u>僕としては施設におるときよりグループホームに 行ってから 髪の毛を染めたことが 一番うれしかったですね</u> 」
結婚式	18:43	<NA> 平成19年、 <u>野村さんは結婚。</u> <u>お相手は、中山さんです。</u> 2人は、クリスマスパーティーで出会い めでたくゴールイン。 <u>結婚を機に、</u> <u>グループホームで、いっしょに 暮らしはじめました。</u>
グループホームでくらす 中山さん 野村さん	19:03  19:37	<中山さん> Q グループホームには行ってよかったことは？ 「 <u>自分で 買い物とか 楽しんだり できること</u> 」 Q2人で生活をして大変だったことは？ 「 <u>けんかしたとき... その時に どうしたらいいのかなと</u> <u>思って 支援者に 電話して 泣きながら どうしたらいい</u> <u>んとか</u> 」 Q. 2人の生活は楽しい？ <野村さん> 「 <u>2人の生活 まず 僕は 思うのはね最近やねんけど</u> <u>食事を してるときに テーブルの下にね 蚊取り線香を</u> <u>たいてるんですよ それを 鼻には行って ちょっと 痛い</u> <u>くさいな と思って</u> <u>我慢して 食べてんねん</u> 」
	20:03  20:33	「この人 はじめて 見たときは ヤセとった <u>最近 ちょっと 太りだしたから</u> <u>ジャガイモ 揚げたやつ 食べ過ぎて太ったのかな</u> <u>それとも トーストを 焼いてきなこをかけて 黒砂糖をか</u> <u>けて 食べてるから 太りだしたんちゃうかな と思って</u> <u>それが ちょっと心配で...</u> 」 「 <u>体調面が</u> 」 Q 最近の生活は？ <中山さん> 「 <u>最近は ケンカしても 支援者に あまり頼らずに</u> <u>だいたい 自分たちで 解決して 何とか 仲よくしている</u> 」
	20:49	<NA> これから <u>地域生活を目指す人たちへ</u> <u>3人からのメッセージです。</u>

山田さん	20:56	<山田さん> Q これから地域生活を目指す人たちへ 「これから 地域で くらしていくんやったら 施設より グループホームに はいって すきなことに すきに時間を 使ってもいいかなと思う」
野村さん	21:09	<野村さん> 「体験で 泊まって グループホームは こういうところだと 良さを わかってくれたらいい と思ってる」
中山さん	21:21	<中山さん> 「やっぱり 地域で 普通に くらしていくのが あたりまえ だと思う」
	21:30	<NA> 困った時はどうしたらいいんだろう。 病気になったらどうしよう。 いろんな心配はするけど、 自分で決めて、自分でやってみたい 仲間といっしょに、楽しいことをしたい。
	21:41 21:45	あなたのまわりには、あなたといっしょに考え、 応援してくれる人たちが、たくさんいます。 ひとりじゃないですよ。
	21:53 21:58 22:04	
タイトル	22:09	<NA> さあ、あなたも、地域で暮らしてみませんか。 はじめてみませんか！地域の暮らし ～ひとりじゃないよ～

障害福祉サービスでは、  
共同生活を行う住まいとして  
グループホームとケアホームがありますが、  
このビデオでは、2つの名称を統一して  
「グループホーム」として使用しています。

企画 大阪府  
監修 地域生活移行ピアカウンセリング活用方策検討委員会  
平成20年度厚生労働省障害者保健福祉推進事業の補助を受けて制作しました。  
制作 放送映画製作所

撮影に際し多くの方々からあたたかい御協力をいただきました  
NPO法人サポートグループほわほわの会地域移行支援センターすてっぷ  
社会福祉法人創思苑  
社会福祉法人すいせん会すいせん共同作業所  
社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団  
社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会  
利用者みなさん 支援者みなさん



平成 20 年度厚生労働省障害者自立支援調査研究プロジェクト  
地域生活移行・生活支援における相談支援機能強化方策検討事業報告書  
「地域生活移行支援におけるピアカウンセリング活用施行実施  
及び普及・啓発ツールの作成」

平成 21 年 3 月

事務局 大阪府障がい者自立相談支援センター 地域支援課  
〒558-0001 大阪市住吉区大領 3 丁目 2 - 36  
TEL 06 - 6692 - 5261 FAX 06 - 6692 - 3981